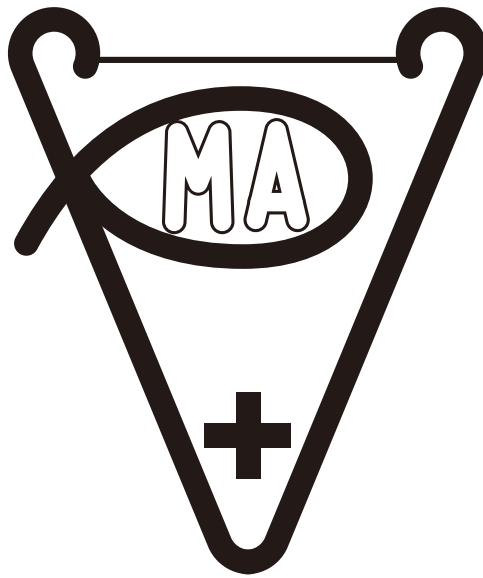


令和7年度
S Y L L A B U S



秋田市医師会立秋田看護学校



校章の起源

外形のデザインは日医の会員証に準拠するとともに秋田のAを図案化しその中央に Medical Association のイニシャルを示し下辺に看護のシンボルを表したものである。

なおこの校章は昭和 39 年の制定である。

目 次

教育理念	1
講師名簿	11
基礎分野	
情報リテラシー	13
生物学	14
論理学	15
教育学	16
英語	17
人間関係論	18
文学	19
心理学	20
カウンセリング	21
社会学	22
倫理学	23
スポーツ科学	24
家族関係論	25
看護におけるホスピタリティ	26
専門基礎分野	
からだの仕組みと働きⅠ・Ⅱ・Ⅲ	27
形態機能学	30
生化学	31
栄養学	32
微生物学	33
病態学総論	34
呼吸器の病態論	35
循環器の病態論	36
消化器の病態論	37
腎・泌尿器の病態論	38
内分泌・代謝・造血の病態論	39
脳神経の病態論	40
運動器の病態論	41
生殖器の病態論	42
小児の病態論	43
精神の病態論	44
薬理学	45
健康科学	46
公衆衛生学	47
社会福祉	48
チーム医療論	49
関係法規Ⅰ	50
関係法規Ⅱ	51
専門分野	
看護学概論	53
看護倫理	54

目 次

看護研究概説	55
フィジカルアセスメント	56
基本的技術Ⅰ・Ⅱ	57
看護過程	59
日常生活の援助技術Ⅰ・Ⅱ	60
診療の補助技術Ⅰ・Ⅱ	62
秋田を知る	64
暮らしの理解	65
地域・在宅看護概論	66
暮らしと環境	67
健康と暮らしを支える技術	68
健康と暮らしを支える看護	69
成人・老年期の生命の危機にある人の看護	70
成人・老年期の生を支え再構築する看護	71
社会の中の成人看護	72
がんとともに生きる成人看護	73
生きているための成人看護	75
生きていくための成人看護	76
成人看護技術	77
高齢者を支えるための看護	78
健康障害をもつ高齢者の回復を促す看護	79
高齢者のより健康な生活を支援する看護	80
社会の中でともに育つ子ども	81
健康障害をもつ子どもとその家族	82
子どもの病気と看護	83
子どものケア	84
母性看護学概論	85
周産期ケア論	86
母性看護技術	87
周産期の健康逸脱と看護	88
精神看護学概論	89
精神看護技術	90
精神の健康障害と看護	91
精神障害者の日常生活援助	92
国際看護	93
災害看護	94
看護マネジメントと医療安全	95
看護の統合	97

臨地実習

基礎看護学実習	99
地域・在宅看護論実習	100
成人・老年看護学実習	101
成人期の慢性期・終末期実習	102
老年看護学実習	103
小児看護学実習	104
母性看護学実習	105
精神看護学実習	106
看護の統合と実践	107

教育理念

豊かな感性と知性を有し、生命と人格を尊重する思いやりに満ち、秋田県のみならず広い社会の保健・医療・福祉に貢献できる高い能力と行動力のある人を育成することを目指す。

教育目的

豊かな人間性と医療人としての精神を育成し、科学的に判断する能力を養い、看護師としての専門知識と技術を修得させ、専門職業人として地域社会の保健・医療・福祉に貢献できる看護師を育成する。

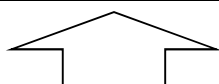
教育目標

- 1 生命を尊重し、人格を思いやることのできる豊かな人間性を身につけることができる。
- 2 生命の安全を保障するために必要な専門知識・技術・態度を基盤に看護を実践することができる。
- 3 地域社会に関心を持ち、すべての保健・医療・福祉の分野に貢献できる。
- 4 (生涯にわたって)自主的かつ継続的に自己啓発できる。

学年目標

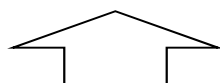
3 年次

- 1 他職種の中で看護師の役割を実践できる。
- 2 自己の課題の達成に向け、計画的に取り組む達成状況を評価できる。



2 年次

- 1 知的好奇心をもって自分なりに解決することができる。
- 2 科学的根拠をもち対象にあった看護実践ができる。
- 3 地域の特性に対して他職種との協力を得ながら解決方法を見出すことができる。
- 4 自己の学習課題を明確にして、目標をもって取り組むことができる。



1 年次

- 1 物事や人間に対する興味や関心をもつことができる。
- 2 生命と人格を尊重でき、誰にでも思いやりをもった行動ができる。
- 3 生命・安全を保障するための基本的な知識・技術・態度が理解できる。
- 4 自分の生活の場を知り、秋田県の特徴が理解できる。
- 5 学習の必要性を理解し、学習習慣を身につけることができる。

看護教育の主要概念の定義

多様性

人はさまざまな背景を持つ者と捉える。人間らしさ。

倫理

道德の規範となる原理。

人間理解

自分と自分以外の他の者を理解する。

看護の対象

看護を必要とする人。

実践能力

実際に履行するために必要な知識・技術・態度。

社会

人間が集まって組織的な共同生活をする環境。

チーム

それぞれの職種の力を発揮し共に仕事をする一団。

マネジメント

生涯を通して、健康のために培った能力を活用すること。

ICT

通信技術を活用した情報共有のスキル。

研究

物事を詳しく調べたり、深く考えたりして、事実や真理を明らかにする。

キャリア形成

専門職として、自らの責任において、生涯にわたって自己の能力の開発・維持・向上に努め、社会人として成長する。

感性

あらゆる物事や人間に対する興味や関心を持ち、これらに対する知的好奇心をもって自分なりに解決しようとするプロセス。「生きる力」は感性に含める。

尊重

人間の生命、人間としての尊厳を尊い者として重んじる。相手の気持ちを大切に尊い者として敬意を示す。

秋田

秋田県は、少子高齢化が進み、生活習慣病の発生率が高く健康問題が深刻な地域である。地域の特性を踏まえ疾病予防、健康増進などあらゆる場面で対応していく総合的能力が必要とされる看護職が求められている。

レジリエンス

しなやかな強さを持ち、困難な社会にも看護師として適応し生き延びる力。

単位履修と学期・講義

1 単位履修

科目別単位数は、1 単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次に掲げる基準により計算するものとする。

- (1) 1 単位の授業時間数は、講義及び演習は15時間から30時間まで、実験、実習及び実技については30時間から45時間までの範囲で構成するものとする。
- (2) 臨地実習については、1 単位を45時間の実習をもって構成するものとする。

〔単位の認定〕

単位の修得は、講義に必要な時間数を出席し、その試験を合格した者に所定の単位を与える。

2 学期

1 年次を2学期に分ける	前 期 : 4月1日から9月30日 後 期 : 10月1日から3月31日
--------------	---

3 授業時間

出校曜日 : 月曜日から金曜日

1 講 : 90分

1 日 : 4講

1 週 : 40時間

時限	授業時間
SHR	8:50 ~ 9:00
1時限	9:00 ~ 10:30
2時限	10:40 ~ 12:10
3時限	13:10 ~ 14:40
4時限	14:50 ~ 16:20

4講

4 実習時間

8:30~16:15

1単位 45時間(5日間)とする
 2単位 90時間(10日間)とする

科目設定及び設定理由

基礎分野

科目名と科目の設定理由	
情報リテラシー	情報社会に対応するために情報分析する知識と統計処理について理解し、看護に応用できる基礎とする。
生物学	生体を構成する細胞の構造や発生・遺伝などの生命の仕組みを理解することで、人間理解の基礎とする。
論理学	論理的思考を学習することで、自らの思考を検証していく科学的態度を養う。
教育学	教育の基本的な考えを知り、健康教育・患者教育の基礎知識を理解し、看護に必要な指導方法の基盤とする。
英 語	広い視野にたって国際的に活躍できる素地を育成する。
人間関係論	人間関係の形成に必要な知識や技術を学ぶことで、さまざまな場面における対人関係成立の基礎とする。
文 学	文学作品に触れることで、洞察力と感性を育てる。さらに読解力・表現力を身につけることで人としての豊かさを育成する。
心理学	人間の知覚、感情、認知、行動、心の発達を心理学的な立場から理解し、人間理解の基盤とする。
カウンセリング	看護の対象となる人々の健康問題に共感的理解をもって解決に導くための技術を習得する。
社会学	社会に目を向け、社会の構造とそれを構成する人・家族・集団の関係や機能を理解する。
倫理学	生命をとりまく医療の現状を学び、生命の尊厳と人権擁護について理解する。
スポーツ科学	学生が自己の健康を維持・増進に必要な知識・技術の習得と実践を通して、健康管理の方法を理解する。
家族関係論	社会の最小単位である家族の在り方を通して、家族とは、家族関係とは、家族と社会の関連などを学習することで、対象の理解を深めるとともに健康指導の実践能力を高める。
看護におけるホスピタリティ	接遇は組織のイメージを大きく左右するものである。医療組織の一員としての意識を持ち、安心感と信頼を与えることができる能力を育成する。

専門基礎分野

科目名と科目の設定理由	
からだの仕組みと働きⅠ	人体を系統だて理解し、健康と疾病の理解の基礎とする。さらに、体の細胞・組織・器官の生理機能を理解し、解剖学と関連づけ、疾病の成り立ちの理解と回復の促進の援助技術の基礎とする。
からだの仕組みと働きⅡ	
からだの仕組みと働きⅢ	
形態機能学	人間が日常生活を営む上で、どのように身体の構造と機能を使い、生活者として暮らしているかを学び、援助技術の基礎とする。
生化学	生体を構成する物質や生体内の物質代謝について学び、健康維持の方法や疾病による変化を理解し援助技術の基礎とする。
栄養学	看護の対象となる人々の健康の保持・増進・あるいは回復のために健康な食生活が営まれるための看護援助の基礎とする。
微生物学	健康を脅かす微生物の働きと感染の関係、発生のメカニズムを理解し、変化する感染症への対応や感染予防対策の基礎とする。
病態学総論	疾病のメカニズム、疾病による機能障害と治療法を学ぶことで、健康の回復増進の援助技術の基礎とする。
呼吸器の病態論	
循環器の病態論	
消化器の病態論	
腎・泌尿器の病態論	
内分泌・代謝・造血の病態論	
脳神経系の病態論	
運動器の病態論	
生殖器の病態論	
小児の病態論	
精神の病態論	
薬理学	薬理作用や有害作用について学習することで、治療の促進、医療過誤防止の基礎とする。
健康科学	健康とは何か、健康の阻害因子など影響を与える要因は何か、また健康の保持増進の方法とは何かを科学的に学び健康教育の基礎とする。
公衆衛生学	環境が健康に及ぼす影響、健康を維持する上で必要な環境への働きなど、健康と環境の関係を学習することで、セルフケア能力を高めるための援助技術の基礎とする。
社会福祉	社会福祉の概念と歴史を学び、福祉制度とサービスを理解し看護活動に活かせる援助技術の基礎とする。
チーム医療論	チーム医療の意義と目的を学び、各職種の専門性と多職種との協働、各チームにおける機能・役割について理解し、チーム医療における看護の役割を考える基礎とする。
関係法規Ⅰ	医療及び生活に関連した諸法規の種類や内容、看護職の法的責任を学ぶことで、医療現場における安全確保の援助技術の基礎とする。
関係法規Ⅱ	

専門分野

科目名と科目の設定理由	
基礎看護学	看護の概念と看護の役割を認識し、人間の理解と看護実践の基礎的能力を養う。
地域・在宅看護論	地域・在宅で生活する人々と家族の健康を支援するために生活の基盤である地域を理解し、健康と暮らしを継続的に支援することを学ぶ。
成人・老年看護学	成人・老年における、各健康レベルの特徴を理解し、生命の維持・回復、生活の再構築と日常生活への適応に向けた看護について理論と方法を学ぶ。
成人看護学	成人期にある人々の身体的・心理・社会的、スピリチュアル的特徴および発達段階を理解し、あらゆる健康レベルにある成人期の対象が抱える健康問題とそれらの解決を支援する看護について学ぶ。
老年看護学	高齢者を取り巻く社会を理解し、高齢者の特徴と老化に応じた看護に必要な基礎的知識、技術、態度を学ぶ。
小児看護学	小児を次の時代を担う大切な存在であることを認識し、小児期にある人たちが日々成長・発達し続けることを理解し、疾病や障害を持つ各期の特徴を理解し、小児と家族、取り巻く人への看護の在り方を学ぶ。
母性看護学	女性の健康を守るために学ぶべきことは、母性の概念や母子保健、リプロダクティブヘルス/ライツ、ライフサイクル各期における看護など多岐にわたる。このような女性の生涯の健康と次世代育成のための支援を学ぶ。
精神看護学	人間の健全な心の発達と心の健康に影響を与える要因を理解する。心の健康を維持するための援助、心のバランスを崩している人や精神に障害をもつ人とその家族に対する援助について学習する。その過程を通して自己洞察し得る態度を養う。
看護の統合と実践	看護師は様々な環境下で、様々な価値観、文化的背景を持った対象に対応できる能力を養う必要がある。また、組織の中での看護師の役割を学び多職種と連携して対象を支援していく能力を育成する。さらに、対象の状況に応じて既習の知識・技術・態度を引き出し、それらを統合した学習場面から臨床判断能力を養う。

教育課程の構造図

基礎分野から専門基礎分野、そして専門分野の学習の統合である。

専門分野

臨地実習：

老年看護学実習、小児看護学実習、母性看護学実習、精神看護学実習、看護の統合と実践

成人期の健康管理実習、成人期の慢性・終末期実習

成人・老年期の周手術期実習

地域・在宅看護論実習Ⅰ、地域・在宅看護論実習Ⅱ

基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、基礎看護学実習Ⅲ

看護の統合と実践：国際看護、災害看護、看護マネジメントと医療安全、看護の統合

精神看護学：精神看護学概論、精神看護技術、精神の健康障害と看護、精神障害者の日常生活援助

母性看護学：母性看護学概論、周産期ケア論、母性看護技術、周産期の健康逸脱と看護

小児看護学：社会の中でともに育つ子ども、健康障害をもつ子どもとその家族、子どもの病気と看護、子どものケア

老年看護学：高齢者を支えるための看護、健康障害をもつ高齢者の回復を促す看護

高齢者のより健康な生活を支援する看護

成人看護学：社会の中の成人看護、がんとともに生きる成人看護、生きているための成人看護、生きていくための成人看護

成人看護技術成人

成人・老年看護学：成人・老年期の生命の危機にある人の看護、成人・老年期の生を支え再構築する看護

地域・在宅看護論：秋田を知る、暮らしの理解、地域・在宅看護概論、暮らしと環境、健康と暮らしを支える技術

健康と暮らしを支える看護

基礎看護学：看護学概論、看護倫理、看護研究概説、フィジカルアセスメント、基本的技術Ⅰ～Ⅱ、看護過程

日常生活の援助技術Ⅰ～Ⅱ、診療の補助技術Ⅰ～Ⅱ

専門基礎分野

健康支援と社会保障制度：健康科学・公衆衛生学・社会福祉・チーム医療・関係法規Ⅰ～Ⅱ

疾病の成り立ちと回復の促進：病態学総論・呼吸器の病態論・循環器の病態論・消化器の病態論・腎・泌尿器の病態論

内分泌・代謝・造血の病態論・脳神経の病態論・運動器の病態論・生殖器の病態論

小児の病態論・精神の病態論・薬理学

人体の構造と機能：からだの仕組みと働きⅠ～Ⅲ・形態機能学・生化学・栄養学・微生物学

基礎分野

人間と生活、社会の理解：人間関係論・文学・心理学・カウンセリング・社会学・倫理学

スポーツ科学・家族関係論・看護におけるホスピタリティ

科学的思考の基盤：情報リテラシー・生物学・論理学・教育学・英語

教育課程（学年別の授業科目・単位数・時間数）

教 育 内 容		授 業 科 目	単位	時間	1 年次		2 年次		3 年次					
					単位	時間	単位	時間	単位	時間				
基礎分野	科学的思考の基礎	情報リテラシー	1	30	1	30								
		生物学	1	30	1	30								
		論理学	1	30	1	30								
		教育学	1	15	1	15								
		英語	1	30			1	30						
	計	5	135	4	105	1	30							
	人間と生活・社会の理解	人間関係論	1	30	1	30	1	30						
		文学	1	30	1	30								
		心理学	1	30	1	30								
		カウンセリング	1	30										
社会学		1	30	1	30									
倫理学		1	15	1	15									
スポーツ科学		1	30	1	30									
家族関係論		1	30	1	30									
看護におけるホスピタリティ		1	15	1	15									
計	9	240	8	210	1	30								
基礎分野小計		14	375	12	315	2	60							
専門基礎分野	人体の構造と機能	からだの仕組みと働きⅠ	1	30	1	30								
		からだの仕組みと働きⅡ	1	30	1	30								
		からだの仕組みと働きⅢ	1	15	1	15								
		形態機能学	1	30	1	30								
		生化学	1	30	1	30								
		栄養学	1	15	1	15								
		微生物学	1	30	1	30								
		計	7	180	7	180								
	疾病の成り立ちと回復の促進	病態学総論	1	15	1	15	1	30						
		呼吸器の病態論	1	30	1	30								
		循環器の病態論	1	30	1	30								
		消化器の病態論	1	30	1	30								
		腎・泌尿器の病態論	1	30	1	30								
		内分泌・代謝・造血の病態論	1	30										
		脳神経の病態論	1	15										
		運動器の病態論	1	15										
		生殖器の病態論	1	15										
		小児の病態論	1	15										
		精神の病態論	1	30										
		薬理学	1	30										
		計	12	285	5	135					7	150		
	健康支援と社会保障制度	健康科学	1	15	1	15			1	30				
		公衆衛生学	1	15	1	15								
		社会福祉	1	30										
		チーム医療論	1	15										
		関係法規Ⅰ	1	15										
		関係法規Ⅱ	1	15										
		計	6	105	2	30					4	75		
専門基礎分野小計		25	570	14	345	7	150	4	75					
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	30	1	30	1	15	1	30				
		看護倫理	1	15										
		看護研究概説	1	30										
		フィジカルアセスメント	1	30	1	30								
		基本的技術Ⅰ	1	15	1	15								
		基本的技術Ⅱ	1	15	1	15								
		看護過程	1	30	1	30								
		日常生活の援助技術Ⅰ	1	15	1	15								
		日常生活の援助技術Ⅱ	1	30	1	30								
		診療の補助技術Ⅰ	1	15	1	15								
		診療の補助技術Ⅱ	1	15										
		計	11	240	8	180					2	30	1	30
	地域・在宅看護論	秋田を知る	1	15	1	15	1	30						
		暮らしの理解	1	15	1	15								
		地域・在宅看護概論	1	15	1	15								
		暮らしと環境	1	30	1	30								
		健康と暮らしを支える技術	1	30										
		健康と暮らしを支える看護	1	30										
		計	6	135	4	75					2	60		

専門分野	成人・老年看護学	成人・老年期の生命の危機にある人の看護	1	30			1	30		
		成人・老年期の生を支え再構築する看護	1	30			1	30		
		計	2	60			2	60		
	成人看護学	社会の中の成人看護	1	15	1	15				
		がんとともに生きる成人看護	1	30			1	30		
		生きているための成人看護	1	30			1	30		
		生きていくための成人看護	1	30			1	30		
		成人看護技術	1	15			1	15		
		計	5	120	1	15	4	105		
	老年看護学	高齢者を支えるための看護	1	15	1	15				
		健康障害をもつ高齢者の回復を促す看護	1	30			1	30		
		高齢者のより健康な生活を支援する看護	1	30			1	30		
		計	3	75	1	15	2	60		
	小児看護学	社会の中でともに育つ子ども	1	30			1	30		
		健康障害をもつ子どもとその家族	1	30			1	30		
		子どもの病気と看護	1	15			1	15		
		子どものケア	1	30			1	30		
		計	4	105			4	105		
	母性看護学	母性看護学概論	1	30			1	30		
		周産期ケア論	1	30			1	30		
		母性看護技術	1	15			1	15		
		周産期の健康逸脱と看護	1	30			1	30		
		計	4	105			4	105		
	精神看護学	精神看護学概論	1	30			1	30		
		精神看護技術	1	15			1	15		
		精神の健康障害と看護	1	30			1	30		
		精神障害者の日常生活援助	1	30			1	30		
		計	4	105			4	105		
	看護の統合と実践	国際看護	1	15					1	15
		災害看護	1	15					1	15
		看護マネジメントと医療安全	1	30			1	30		
		看護の統合	1	15					1	15
		計	4	75			1	30	3	45
	専門分野小計		43	1020	14	285	25	660	4	75
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	1	45				
		基礎看護学実習Ⅱ	1	45	1	45				
		基礎看護学実習Ⅲ	2	90			2	90		
		地域・在宅看護論実習Ⅰ	2	90	2	90				
		地域・在宅看護論実習Ⅱ	2	90					2	90
		成人・老年期の健康管理実習	1	45			1	45		
		成人・老年期の周手術期実習	2	90					2	90
		成人期の慢性・終末期実習	2	90					2	90
		老年看護学実習	2	90					2	90
		小児看護学実習	2	90					2	90
		母性看護学実習	2	90					2	90
		精神看護学実習	2	90					2	90
		看護の統合と実践	2	90					2	90
		臨地実習小計	23	1035	4	180	3	135	16	720
	3分野・臨地実習合計		105	3000	44	1125	37	1005	24	870

令和7年度 講 師 名 簿

新任

	教育内容	授業科目	単位	時間	講 師 名	専任・兼任	所 属 先	年次	時期
基礎分野	科学的思考の基盤	情報リテラシー	1	30	小 林 秀 樹	兼任	(有)ネットバーソンス	1	前期
		生物学	1	30	石 井 照 久	兼任	秋田大学教育文化学部	1	後期
		論理学	1	30	田 子 多津子	兼任	前職 慶応義塾大学言語文化研究所	1	後期
		教育学	1	15	山 口 香 苗	兼任	秋田大学教育文化学部	1	前期
		英語	1	30	大 西 洋 一	兼任	秋田大学教育文化学部	2	前期
	人間と生活・社会の理解	人間関係論	1	30	佐々木 久 長	兼任	秋田大学大学院医学系研究科	1	前期
		文学	1	30	佐 藤 雅 彦	兼任	JET日本語集中講座事務局代表者 秋田大学高等教育グローバルセンター	1	前期
		心理学	1	30	森 和 彦	兼任	秋田大学名誉教授	1	後期
		カウンセリング	1	30	濱 田 拓	兼任	臨床心理士	2	前期
		社会学	1	30	和 泉 浩	兼任	秋田大学教育文化学部	1	前期
		倫理学	1	15	田 子 多津子	兼任	前職 慶応義塾大学言語文化研究所	1	後期
		スポーツ科学	1	30	松 下 翔 一	兼任	秋田大学教育文化学部	1	前期
		家族関係論	1	30	佐々木 久 長	兼任	秋田大学大学院医学系研究科	1	後期
		看護におけるホスピタリティ	1	15	皆 川 千 年	専任	教務主任	1	前期
専門基礎分野	人体の構造と機能	からだの仕組みと働きⅠ	1	30	板 東 良 雄	兼任	秋田大学大学院医学系研究科	1	前期
		からだの仕組みと働きⅡ	1	30				1	前期
		からだの仕組みと働きⅢ	1	15				1	後期
		形態機能学	1	30	佐々木 寿美礼	専任	専任教員	1	前期・後期
					杉 本 緑	専任	専任教員	1	前期・後期
		生化学	1	30	塚 田 三香子	兼任	前職 聖童女子短期大学生活文化科	1	前期・後期
		栄養学	1	15	新 田 智 子	兼任	秋田大学大学院医学系研究科 医学部(調達課)	1	後期
		微生物学	1	30	原 田 誠三郎	兼任	前職 秋田県総合保健事業団	1	後期
	疾病の成り立ちと回復の促進	病態学総論	1	15	川 村 公 一	兼任	早稲田大学先進理工学部	1	前期
		呼吸器の病態論	1	30	伊多波 未 来	兼任	秋田赤十字病院	1	後期
					福 井 伸	兼任	秋田厚生医療センター	1	後期
		循環器の病態論	1	30	阿 部 芳 久	兼任	市立秋田総合病院	1	後期
		消化器の病態論	1	30	中 根 邦 夫	兼任	市立秋田総合病院	1	前期・後期
					辻 剛 俊	兼任	市立秋田総合病院		
					津 田 聡 子	兼任	市立秋田総合病院		
					菅 原 佳 恵	兼任	市立秋田総合病院		
					松 澤 尚 徳	兼任	市立秋田総合病院		
		腎・泌尿器の病態論	1	30	石 田 俊 哉	兼任	市立秋田総合病院	1	後期
					佐 藤 良 延	兼任	おのば腎泌尿器科クリニック		後期
		内分泌・代謝・造血の病態論	1	30	三 浦 岳 史	兼任	市立秋田総合病院	2	前期
					山 口 昭 彦	兼任	前職 秋田郵政健康管理センター		
		脳神経の病態論	1	15	猪 股 拓 海	兼任	市立秋田総合病院	2	前期
		運動器の病態論	1	15	柏 倉 剛	兼任	藤原記念病院	2	前期
		生殖器の病態論	1	15	軽 部 裕 子	兼任	市立秋田総合病院	2	前期
		小児の病態論	1	15	武 田 修	兼任	市立秋田総合病院	2	前期
		精神の病態論	1	30	藤 枝 信 夫	兼任	清和病院	2	前期
		薬理学	1	30	佐々木 修	兼任	中通総合病院	2	後期
	健康支援と社会保障制度	健康科学	1	15	伊 藤 善 信	兼任	秋田市保健所	1	前期
		公衆衛生学	1	15	伊 藤 善 信	兼任	秋田市保健所	1	後期
		社会福祉	1	30	米 谷 恭 一	兼任	社会福祉法人 協和会	3	後期
					伊 藤 梅 香	兼任	市立秋田総合病院	3	後期
		チーム医療論	1	15	成 田 雪 美	兼任	土崎病院	3	前期
		関係法規Ⅰ	1	15	親 山 日出樹	兼任	前職 学校法人コア学園秋田リハビリテーション学院	3	後期
		関係法規Ⅱ	1	15	菊 地 富貴子	兼任	訪問看護ステーションあきた	3	後期
基礎看護学	基礎看護学	看護学概論	1	30	皆 川 千 年	専任	教務主任	1	前期
		看護倫理	1	15	石 川 千 夏	兼任	市立秋田総合病院	2	前期
					京 野 順 子	専任	副学校長		
		看護研究概説	1	30	京 野 順 子	専任	副学校長	3	前期・後期
		フィジカルアセスメント	1	30	高 橋 久美子	専任	専任教員	1	前期・後期
		基本的技術Ⅰ	1	15	小 林 正 嘉	専任	副学校長補佐	1	前期
		基本的技術Ⅱ	1	15	中 川 まゆ子	専任	専任教員	1	前期
		看護過程	1	30	藤 本 具 子	専任	専任教員	1	後期
		日常生活の援助技術Ⅰ	1	15	杉 本 緑	専任	専任教員	1	前期
		日常生活の援助技術Ⅱ	1	30	中 川 まゆ子	専任	専任教員	1	前期
					杉 本 緑	専任	専任教員	1	前期
		診療の補助技術Ⅰ	1	15	杉 本 緑	専任	専任教員	1	後期
		診療の補助技術Ⅱ	1	15	高 橋 久美子	専任	専任教員	2	後期

専門分野	地域・在宅看護論	秋田を知る	1	15	新堀道生	兼任	秋田県立博物館	1	前期
					丸谷仁美	兼任	秋田県立博物館		
					藤中由美	兼任	秋田県立博物館		
					千田育栄	兼任	秋田県立博物館		
					中川まゆ子	専任	専任教員		
		暮らしの理解	1	15	中川まゆ子	専任	専任教員	1	前期
		地域・在宅看護概論	1	15	佐藤聡美	兼任	前職 中通高等看護学院	1	前期
					藤本具子	専任	専任教員		
		暮らしと環境	1	30	八代雄市	兼任	秋田聖徳会多機能型支援センター第二聖和	1	前期
					藤本具子	専任	専任教員		
		健康と暮らしを支える技術	1	30	田畑美雪	兼任	彩の風訪問看護ステーション	2	前期
		健康と暮らしを支える看護	1	30	佐藤研	兼任	訪問看護ステーション 赤とんぼ	2	後期
	成人・老年看護学	成人・老年期の生命の危機にある人の看護	1	30	皆川千年	専任	教務主任	2	前期
		成人・老年期の生を支え再構築する看護	1	30	藤本具子	専任	専任教員	2	前期
	成人看護学	社会の中の成人看護	1	15	皆川千年	専任	教務主任	1	後期
		がんとともに生きる成人看護	1	30	伊藤登茂子	兼任	前職 秋田大学大学院医学系研究科	2	後期
		生きているための成人看護	1	30	高橋久美子	専任	専任教員	2	前期
		生きていくための成人看護	1	30	佐々木 寿美礼	専任	専任教員	2	前期
		成人看護技術	1	15	高橋久美子	専任	専任教員	2	前期
					筒井 あすか	兼任	市立秋田総合病院		
	老年看護学	高齢者を支えるための看護	1	15	佐藤聡美	兼任	前職 中通高等看護学院	1	後期
		健康障害をもつ高齢者の回復を促す看護	1	30	佐藤聡美	兼任	前職 中通高等看護学院	2	前期
		高齢者のより健康な生活を支援する看護	1	30	佐藤聡美	兼任	前職 中通高等看護学院	2	後期
					藤本具子	専任	専任教員		
	小児看護学	社会の中でともに育つ子ども	1	30	薄田悦子	専任	実習調整者	2	前期
		健康障害をもつ子どもとその家族	1	30	山本尚樹	兼任	市立秋田総合病院	2	前期
					杉本 緑	専任	専任教員		
		子どもの病気と看護	1	15	薄田悦子	専任	実習調整者	2	後期
		子どものケア	1	30	大高恵美	兼任	日本赤十字東北看護大学	2	後期
					薄田悦子	専任	実習調整者	2	後期
	母性看護学	母性看護学概論	1	30	佐々木 寿美礼	専任	専任教員	2	前期
		周産期ケア論	1	30	古田由美子	兼任	ゆみっこ助産院	2	前期
					中村幸恵	兼任	並木クリニック	2	前期・後期
		母性看護技術	1	15	佐々木 寿美礼	専任	専任教員	2	後期
		周産期の健康逸脱と看護	1	30	佐々木 寿美礼	専任	専任教員	2	後期
	精神看護学	精神看護学概論	1	30	小林正嘉	専任	副学校長補佐	2	前期
		精神看護技術	1	15	中川まゆ子	専任	専任教員	2	前期
		精神の健康障害と看護	1	30	齋藤武彦	兼任	市立秋田総合病院	2	前期
					中川まゆ子	専任	専任教員		
		精神障害者の日常生活援助	1	30	高橋将太	兼任	市立秋田総合病院	2	後期
					中川まゆ子	専任	専任教員		
	看護の統合と実践	国際看護	1	15	新沼 剛	兼任	日本赤十字東北看護大学	3	後期
		災害看護	1	15	熊谷洋子	兼任	秋田厚生医療センター	3	前期
		看護マネジメントと医療安全	1	30	吹谷由美子	兼任	秋田県看護協会	2	前期
					成田雪美	兼任	土崎病院		
		看護の統合	1	15	薄田悦子	専任	実習調整者	3	前期
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	杉本 緑	専任	専任教員	1	前期
		基礎看護学実習Ⅱ	1	45	杉本 緑	専任	実習調整者	1	後期
		基礎看護学実習Ⅲ	2	90	藤本具子	専任	専任教員	2	前期
		地域・在宅看護論実習Ⅰ	2	90	藤本具子	専任	専任教員	1	後期
					小林正嘉	専任	副学校長補佐		
		地域・在宅看護論実習Ⅱ	2	90	藤本具子	専任	専任教員	3	後期
					小林正嘉	専任	副学校長補佐		
		成人・老年期の健康管理実習	1	45	小林正嘉	専任	副学校長補佐	2	後期
		成人・老年期の周手術期実習	2	90	皆川千年	専任	教務主任	3	前期
		成人期の慢性・終末期実習	2	90	高橋久美子	専任	専任教員	3	後期
		老年看護学実習	2	90	藤本具子	専任	専任教員	3	前期
		小児看護学実習	2	90	薄田悦子	専任	実習調整者	3	前期
		母性看護学実習	2	90	佐々木 寿美礼	専任	専任教員	3	前期
		精神看護学実習	2	90	中川まゆ子	専任	専任教員	3	前期
		看護の統合と実践	2	90	薄田悦子	専任	実習調整者	3	後期
	カウンセラー				戸田幸子				

基礎分野

科目名		講義担当		所属	
情報リテラシー		小林 秀樹		有限会社ネットパーソンズ	
履修時期	1 年前期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
受講上の留意点					
実際にパソコンを操作しながら、知識及び基本的操作テクニックを習得しましょう。					
科目のねらい・授業目標					
パソコン及び基本アプリケーションの基本操作方法を習得する。 インターネットの関わる基本リテラシーを高める。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	パソコンの基本操作と扱う際の注意			講義・演習	
2 回目	Microsoft Word の操作			講義・演習	
3 回目	Microsoft Word の操作			講義・演習	
4 回目	Microsoft Word の操作			講義・演習	
5 回目	Microsoft Word の操作			講義・演習	
6 回目	Microsoft PowerPoint の操作			講義・演習	
7 回目	Microsoft PowerPoint の操作			講義・演習	
8 回目	Microsoft Word.Excel. PowerPoint のまとめ			テスト/課題	
9 回目	クラウド上でのファイル処理			講義・演習	
10 回目	インターネットセキュリティ			講義・演習	
11 回目	情報収集/検索のしかた			講義・演習	
12 回目	情報の取捨選択・ファクトチェック			講義・演習	
13 回目	看護/医療に関わる統計処理			講義・演習	
14 回目	看護/医療に関わる統計処理			講義・演習	
15 回目	看護/医療に関わる統計処理			講義・演習	
16 回目	試験			テスト/課題	
評価方法					
課題提出 30 点 ポストテスト 70 点					
使用するテキスト					
医療・看護系のための情報リテラシー/東京図書					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
生物学		石井 照久		秋田大学教育文化学部	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点 毎回の授業の冒頭で、最新の科学ニュースを可能な限り紹介したいです。授業中にタバコの害について、強く触れます。授業中に小テストなどを行いますので、欠席をしないようにしてください。(小テストの日程は未定です)。					
科目のねらい・授業目標 1. 生命観の変遷について概説できる。 2. 生命の誕生の考え方について概説できる。 3. 細胞の構成成分および代謝・化学反応を概説できる。 4. 世の中のことを理解し、生命を概説できる。 5. 遺伝の仕組みを概説できる。 6. 細胞の生と死を概説できる。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	ガイダンス、サイエンスの始まり、生物学の始まり			講義	
2 回目	アリストテレスの生命観、生物学の大きな流れ			講義	
3 回目	近代生物学の始まり、ハーヴェーの生命観			講義	
4 回目	自然発生説について、パスツールの生命観			講義	
5 回目	生命の誕生と進化について(化学進化)			講義	
6 回目	生命の誕生と進化について(生物進化)			講義	
7 回目	細胞の構成成分(必須5成分)と代謝			講義	
8 回目	アミノ酸、タンパク質(酵素)、脂質			講義	
9 回目	糖質、核酸、遺伝子、染色体			講義	
10 回目	原核細胞と真核細胞			講義	
11 回目	どこまでが生命か・生命の定義			講義	
12 回目	遺伝の仕組み(2つの遺伝とセントラルドグマ)			講義	
13 回目	遺伝の仕組み(遺伝子と病気)			講義	
14 回目	細胞の生と死(体細胞分裂と減数分裂)			講義	
15 回目	細胞の生と死(初期化された細胞とがん細胞)			講義	
16 回目	試験				
評価方法 授業中の小テストや課題(6点×8回＝48点)と期末テスト(52点)の合計 100 点満点で評価する。					
使用するテキスト 系統看護学講座 「専門基礎 生化学」 医学書院					
参考文献 検討中					

科目名		講義担当		所属	
論理学		田子 多津子		前職 慶応義塾大学言語文化研究所	
履修時期	1 年後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
受講上の留意点					
筋道を立てて考えることに慣れるよう、練習問題に取り組みましょう。					
科目のねらい・授業目標					
物事を論理的に考える論理的思考能力を養う。					
1, 論理学の基礎					
2, 論理的思考とは何か					
3, 論理的思考の実践					
(様々な事実や情報の分析に基づいて問題を解決する思考力を養う)					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	導入－論理とは			講義・演習	
2 回目	伝わる書き方の練習			講義・演習	
3 回目	接続表現に注意する (1)			講義・演習	
4 回目	" (2)			講義・演習	
5 回目	" (3) (小テスト①)			講義・演習	
6 回目	議論の骨格をとらえる(1)			講義・演習	
7 回目	" (2)			講義・演習	
8 回目	" (3) (小テスト②)			講義・演習	
9 回目	論証-推論(演繹)と推測の違い			講義・演習	
10 回目	仮説形成			講義・演習	
11 回目	三段論法、暗黙の前提			講義・演習	
12 回目	条件構造(1)－「ならば」の構造、逆・裏・対偶			講義・演習	
13 回目	条件構造(2)－逆は必ずしも真ならず			講義・演習	
14 回目	否定の論理(1)			講義・演習	
15 回目	否定の論理(2)			講義・演習	
16 回目	試験				
評価方法					
授業中の小テスト(40%)と最終の試験(60%)により評価する。					
使用するテキスト					
必要に応じてプリントを配布する。					
参考書は授業中に適宜紹介する。					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
教育学		山口 香苗		秋田大学教育文化学部	
履修時期	1 年前期	単位数	1 単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
日常の教育的な営みに関心をもってみてください。					
科目のねらい・授業目標					
本授業では、教育や学校を成り立たせている子ども観や、学校だけにとどまらない社会における教育的営みなどについて検討し、自分なりの教育観をもてるようになることを目標とする。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	オリエンテーション:「教え育てる」が教育か？			講義 ディスカッション	
2 回目	「子どもの発見」と近代			講義 ディスカッション	
3 回目	日本の子ども観・教育観			講義 ディスカッション	
4 回目	基礎教育と夜間中学			講義 動画視聴	
5 回目	教育と福祉のはざま			講義 動画視聴	
6 回目	生涯学習の理念と展開			講義 ディスカッション	
7 回目	長寿社会における教育・学習			講義 ディスカッション	
8 回目	試験				
評価方法					
試験時の最終レポートをもとに判断する。					
使用するテキスト					
特になし。					
参考文献					
授業時に提示する。					

科目名		講義担当		所属	
英 語		大西 洋一		秋田大学教育文化学部	
履修時期	2 年前期	単位数	1 単位	時間数	3 0 時間
受講上の留意点 ・ 毎授業で、勉強した内容に関する復習小テストをおこないます。 ・ 英語の辞書（紙媒体でも電子辞書でも良い）を用意してください。 ・ 事前に知らない単語を調べ、予習しておきましょう。					
科目のねらい・授業目標 ・ 語学力を高めて国際感覚を養うとともに、英会話によるコミュニケーション技術を習得する。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	Unit 1: [挨拶と窓口対応]			読解、聴解 役割演習 等	小テスト 1
2 回目	Unit 2: [身体の問題を尋ねる]			同上	小テスト 2
3 回目	Unit 3: [採血]			同上	小テスト 3
4 回目	Unit 4: [入院生活の流れ]			同上	小テスト 4
5 回目	Unit 5: [生活習慣や宗教上の制限]			同上	小テスト 5
6 回目	Unit 6: [病歴の確認]			同上	小テスト 6
7 回目	Unit 7: [アレルギーの有無の確認]			同上	小テスト 7
8 回目	Unit 8: [痛みの種類の確認]			同上	小テスト 8
9 回目	Unit 9: [可動域の確認]			同上	小テスト 9
10 回目	Unit 10: [車椅子への移乗介助]			同上	小テスト 10
11 回目	Unit 11: [歩行トレーニング]			同上	小テスト 11
12 回目	Unit 12: [患者さんとの雑談]			同上	小テスト 12
13 回目	Unit 13: [家族の方とのコミュニケーション]			同上	小テスト 13
14 回目	Unit 14: [リハビリ患者への励まし]			同上	小テスト 14
15 回目	Unit 15: [手術前の不安]			同上	小テスト 15
16 回目	試験				
評価方法 毎回の小テスト 50% + 期末試験 50%					
使用するテキスト 『Care for All: Effective Patient Communication for Healthcare Workers 医療従事者のためのやさしい英語コミュニケーション』（成美堂、2025 年）					
参考文献 特になし					

科目名		講義担当		所属	
人間関係論		佐々木 久長		秋田大学大学院医学系研究科	
履修時期	1 年前期	単位数	1 単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 人間関係の基礎的理論を習得する 1. 人間関係の基礎とコミュニケーション 2. 看護における人間関係 3. カウンセリング技法の基礎					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	関係の主体者としての「私」			講義(一部演習)	
2 回目	人間の存在性について				
3 回目	出会いと関係性にする理解				
4 回目	コミュニケーションの基本的理解				
5 回目	傾聴とロールプレイ				
6 回目	うつ状態にある人への対応				
7 回目	希死念慮のある人への対応				
8 回目	交流分析の理解				
9 回目	交流分析の理解				
10 回目	患者と看護師の人間関係				
11 回目	患者と看護師の人間関係				
12 回目	カウンセリング技法の基礎				
13 回目	カウンセリング技法の基礎				
14 回目	人間関係における病理				
15 回目	まとめ				
16 回目	試験				
評価方法					
試験とレポート					
使用するテキスト					
授業中に資料を配付する					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
文学		佐藤 雅彦		JET 日本語集中講座事務局 秋田大学高等教育グローバルセンター	
履修時期	1 年前期	単位数	1 単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
授業は予習を前提としてすすめます。					
科目のねらい・授業目標					
深い洞察力和豊かな感性を育て、読解力や表現力を育てる。 看護の対象である人間を理解し、人を思いやれる豊かな人間性を育てる。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	ガイダンス			講義・演習	
2 回目	文学作品およびその映像化作品などに接する 要旨、感想などを他の人が読んでわかるように整える データから情報を読み取って言語化する 上を含んだ文章を論理的な構成で書く			講義・演習	
3 回目					
4 回目					
5 回目					
6 回目					
7 回目					
8 回目					
9 回目					
10 回目					
11 回目					
12 回目					
13 回目					
14 回目					
15 回目					
16 回目	期末テスト				
評価方法					
評価は以下の観点から行います。 小テスト30%、期末テスト30%、文章作成30%、授業への参加度10%					
使用するテキスト					
授業中に資料を配付します。					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
心理学		森 和彦		前職 秋田大学教育文化学部	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点 授業の進め方等は、シャトルカードの返還等による前回の補足説明→講義の聴取によるノート作成→シャトルカードの提出→ノートによるテキスト編集(放課後)の手順で進めます。看護師養成のための基礎科目であるため、聴解力、読解力、集中力を必要とするかなり厳しい授業になります。講義の場に座っているだけでは受講とは言えません。積極的な取り組みを期待します。					
科目のねらい・授業目標 生涯発達心理学を軸に、看護師にとって必要な心理学的知見を概観し、自己研鑽・現場実践に役立つよう理解する。 * 特に援助専門家とクライアントの心理的レジリエンスの視点は重要					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	「心の科学」についての理解			講義	
2 回目	生涯発達の視点・背景を理解する。			講義	
3 回目	発達障害の概念と「できる/できない」の捉え方			講義	
4 回目	気質(特性論的理解と支援の在り方)とその発達			講義と演習	
5 回目	ヒトのコミュニケーションの発達過程の理解			講義	
6 回目	親子のコミュニケーション(1)			講義	
7 回目	親子のコミュニケーション(2)			講義	
8 回目	幼児からの自己中心性と意図の読み取りの発達についての理解			講義	
9 回目	遊びの発達			講義	
10回目	青年期の特徴と発達課題の理解			講義	
11回目	恋愛・結婚・子育ての心理学的知見を学ぶ。			講義	
12回目	加齢と成熟発達の心理学的知見を学ぶ。			講義と演習	
13回目	自己認知・対人認知のゆがみを理解する。			講義	レジリエンスの背景
14回目	ヒトの選択構造化戦略について理解する。			講義	レジリエンスの行動戦略
15回目	生きる力(Key Competency)の発達理解 ストレスマネジメントと Life Skill の獲得			講義	レジリエンスの技法
16 回目	試験			ペーパー試験	
評価方法 筆記課題試験で成績は決まる。理解の確認など必要に応じて課題レポート提出およびノート提出を求める。試験も提出物も最低出席数も合格必要条件課題であるが、合格十分条件ではない。また答える量や枚数の多さも合格十分条件にならない。					
使用するテキスト 対人援助職のための発達心理学 北樹出版 ISBN978-4-7793-0657-0					
参考文献 参考書:参考プリントなど随時紹介・配付する。 「心理学小辞典」は予習、復習、試験勉強に大変役立ちます。各自自分に分かり易い辞典を手元に置くようにしてください。					

科目名		講義担当		所属	
カウンセリング		濱田 拓		フリーランス	
履修時期	2年前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
・専門知識の修得のみならず、演習を通して対人技術の向上に励みます。 各種演習についての主体的学びの姿勢も評価の対象といたします。					
科目のねらい・授業目標					
・カウンセリング的なものの見方、人との接し方について学び、さらに他者理解と自己理解を深める事、受容・共感的な態度で援助できるように対人技術を磨く事を目的とする。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	カウンセリングの基礎と演習①			講義・演習	
2 回目	カウンセリングの基礎と演習②			〃	
3 回目	グループダイナミクスと見立て①			〃	
4 回目	グループダイナミクスと見立て②			〃	
5 回目	集団精神療法とグループワーク①			〃	
6 回目	集団精神療法とグループワーク②			〃	
7 回目	自己理解と他者理解①			〃	
8 回目	自己理解と他者理解②			〃	
9 回目	傾聴とアセスメント①			〃	
10 回目	傾聴とアセスメント②			〃	
11 回目	チーム医療と集団療法①			〃	
12 回目	チーム医療と集団療法②			〃	
13 回目	個人療法と集団療法①			〃	
14 回目	個人療法と集団療法②			〃	
15 回目	まとめ			〃	
16 回目	試験				
評価方法					
1. 2/3 以上の出席 2. 演習での積極性や主体性 3. 最終試験の60以上合格					
使用するテキスト					
看護カウンセリング論～看護師による「カウンセリング事例」集 北島謙吾編 学術研究出版					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
社会学		和泉 浩		秋田大学教育文化学部	
履修時期	1年前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 看護の対象である人間の社会的行為、社会関係、社会集団、社会の構造を学び、社会的存在として理解する。家族についての基礎的理解と家族が直面している現実問題について理解する。 1, 社会の概念 2, 社会を形成する基礎的要素 3, 社会集団と社会行為 4, 家族のあり方と現実問題					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	社会学の考え方			講義	
2 回目	社会学誕生の背景			講義	
3 回目	代表的な社会学者の社会理論			講義	
4 回目	社会調査と統計			講義	
5 回目	健康格差、平等をめぐる問題			講義	
6 回目	医療と健康、看護の社会			講義	
7 回目	生命倫理(バイオエシックス)と社会			講義	
8 回目	試験				
	各テーマを1回から3回の授業で扱いますが、授業の進行具合により内容を変更することがあります。				
評価方法					
筆記試験					
使用するテキスト					
授業内容に関連する文献等をそのつど指示します。					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
倫理学		田子 多津子		前職 慶応義塾大学言語文化研究所	
履修時期	1 年後期	単位数	1 単位	時間数	15 時間
受講上の留意点					
・毎回、教科書の該当箇所を読んで授業に臨むこと。 ・授業中に随時内容についての意見を求めます。					
科目のねらい・授業目標					
1. 生と死に関する多様な観点を知る。 2. 生命倫理の基本的問題に関する知識を身につける。 3. 生命倫理に関する問題について知識をもとに議論できる。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	生命倫理の問題の始まり			講義	教科書第1章
2 回目	トリアージという考え方			講義	第2章
3 回目	命の始まりに関わる諸問題			講義	第3, 4章
4 回目	優生思想の展開と背景			講義	第5章
5 回目	生殖補助医療と自己決定			講義	第6, 7章
6 回目	延命治療と尊厳死			講義	第8－11 章
7 回目	臓器移植と脳死に関する議論			講義	第 11－13 章
8 回目	試験				
評価方法 試験 60%、提出課題 30%、振り返りカード 10%					
使用するテキスト					
香川智晶『命は誰のものか 増補改訂版』ディスカバー携書 2021 年 高谷清『重い障害を生きるということ』岩波新書、2011(課題図書)					
参考文献					
授業中に適宜紹介する。					

科目名		講義担当		所属	
スポーツ科学		松下 翔一		秋田大学教育文化学部	
履修時期	1年前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
スポーツ実践に適した服装や履物を準備すること。					
科目のねらい・授業目標					
健康と生活において、生活習慣の中の運動について重要性を理解し、健全な心身を養う。 1, 理論と方法 2, 技術の習得					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回～9回	学習目標を達成するために、必要な施設・用具の調った各種スポーツ種目(バレーボール、卓球、バドミントン等)をゲーム中心に実践する。また、準備・整理運動のり重要性を理解させ、自己やケガの防止に努める。			講義	
	グループづくり			実技および演習	
	各種スポーツ種目のルールおよび技能についての学習				
	各種スポーツ種目の実践				
10回目	まとめ				
評価方法					
出席状況(50%)、授業時の活動状況(30%)、学習意欲(20%)					
使用するテキスト					
必要に応じてプリントを配布する。					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
家族関係論		佐々木 久長		秋田大学大学院医学系研究科	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
特になし					
科目のねらい・授業目標					
1, 看護の対象としての家族の基本概念について理解する。 2, 家族看護の基本概念と家族看護のプロセスについて理解する。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	家族とは何か(家族構造と機能の理解)			講義	
2 回目	発達する家族(家族のライフサイクル)			講義	
3 回目	システムとしての家族			講義	
4 回目	家族を理解するポイント			講義	
5 回目	家族ストレスと危機の理解と対応			講義	
6 回目	集団としての家族と役割構造			講義	
7 回目	家族内コミュニケーションの理解			講義	
8 回目	家族療法の基本的理解			講義	
9 回目	家族療法の理論			講義	
10 回目	家族とパートナーシップとセルフケア			講義	
11 回目	家族アセスメント			講義	
12 回目	家族と地域・家族と文化			講義	
13 回目	実践例の理解 DV／子どもケア／心の問題			講義	
14 回目	実践例の理解 臓器提供／壮年期の癌／難病			講義	
15 回目	実践例の理解 高齢社会後／終末期			講義	
16 回目	試験				
評価方法					
試験(70%)+レポート(20%)+出席状況(10%)					
使用するテキスト					
山崎あけみ他:家族看護学:南江堂					
参考文献					

科目名 看護における ホスピタリティ		講義担当 皆川 千年		所属 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1 年前期	単位数	1 単位	時間数	15 時間
受講上の留意点 1.業種を問わず、これまでの顧客体験から、 1)心地よいと感じた接客サービス 2)嫌な思いをした接客サービスについて自分の思いや考えをまとめて授業に臨みましょう。 2.学習効果を高めるため演習を実施します。 3.臨地実習においても活用していきますので積極的に参加しましょう。					
科目のねらい・授業目標 1.接遇は組織のイメージを大きく左右するものである。 医療組織の一員としての意識を持ち、療養生活を支える心と技術を習得する					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	ホスピタリティに関する基礎的知識 1)看護師としての心を養う			講義	
2 回目	2)身に付けておきたい基本マナーと接遇			講義・演習	
3 回目	医療安全と接遇 1)看護師だからこそ必要なマナーと接遇			講義・演習	
4 回目	自分と患者を守るコミュニケーション 1)コミュニケーションスキルを身に付けよう			講義・演習	
5 回目	生活場面における接遇の基本 1)地域・在宅訪問時のお作法			講義・演習	在宅実習室使用
6 回目	実習場面でのホスピタリティ 1)これでカンペキ！私たちの実習前チェック！（基礎）			講義・演習	
7 回目	実習場面でのホスピタリティ 1)これでカンペキ！私たちの実習前チェック！（実践） 2)ポートフォリオ作成			講義・演習	ユニフォームを着用し 参加のこと
8 回目	試験 まとめ				
評価方法 筆記試験(80%)＋ポートフォリオ作成(10%)＋演習参加状況(10%)					
使用するテキスト 看護学生の勉強と生活 まるごとナビ 自律的に過ごすための 23 のレッスン. 日本看護協会出版会					
参考文献 随時紹介					

專門基礎分野

科目名		講義担当		所属	
からだの仕組みと働きⅠ		板東 良雄		秋田大学大学院医学系研究科	
履修時期	1 年前期	単位数	1 単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
教科書等をあらかじめ見ておき、学習する内容についてある程度イメージできていることが望ましい。この科目は医学の根幹をなし、すべての科目に関連しているといっても過言ではないため、本来は試験に受かることが目的ではなく実際に臨床でも使える知識を身につけることが重要である。しかしながら、知識量が膨大で講義を一度聞いたくらいではなかなか理解できず、まとめて短期間に修得するのも難しい。そのため、多くの学生が国家試験前でも苦手としているので、日々少しずつ努力を積み重ねていくことが望まれる。					
科目のねらい・授業目標					
臨床現場で必要となる各疾患の病態を修得して診療を実践していくために、人体を構成する臓器や組織がどのように形成・構築され(解剖)、どのような機能を担っているか(生理)について統合的に理解する。 1) 主要器官・組織の正常機能とその仕組みの概要を説明できる。 2) 疾患の多くは正常構造や機能の異常によって生じることを理解する。 3) 病態生理学の理解につながるような知識・考え方を身につける。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	解剖の基礎知識(細胞・組織・解剖学的用語)			講義	
2 回目	解剖の基礎知識(細胞・組織・解剖学的用語)			講義	
3 回目	解剖の基礎知識(細胞・組織・解剖学的用語)			講義	
4 回目	解剖の基礎知識(細胞・組織・解剖学的用語)			講義	
5 回目	身体の支持と運動(骨格)			講義	
6 回目	身体の支持と運動(骨格)			講義	
7 回目	身体の支持と運動(骨格)			講義	
8 回目	身体の支持と運動(関節)			講義	
9 回目	身体の支持と運動(筋肉)			講義	
10 回目	身体の支持と運動(筋肉)			講義	
11 回目	身体の支持と運動(筋肉)			講義	
12 回目	血液			講義	
13 回目	免疫			講義	
14 回目	免疫			講義	
15 回目	免疫			講義	
16 回目	試験				
評価方法					
試験の成績および出席状況を加味し、総合的に評価する。講義中に小テストなどの形成試験を行う場合にはあらかじめ通知する。					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院					
参考文献					
トートラ人体の構造と機能(丸善)、人体の解剖生理学(金芳堂)、解剖生理学(南山堂)					

科目名		講義担当		所属	
からだの仕組みと働きⅡ		板東 良雄		秋田大学大学院医学系研究科	
履修時期	1年前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
教科書等をあらかじめ見ておき、学習する内容についてある程度イメージできていることが望ましい。この科目は医学の根幹をなし、すべての科目に関連しているといっても過言ではないため、本来は試験に受かることが目的ではなく実際に臨床でも使える知識を身につけることが重要である。しかしながら、知識量が膨大で講義を一度聞いたくらいではなかなか理解できず、まとめて短期間に修得するのも難しい。そのため、多くの学生が国家試験前でも苦手としているので、日々少しずつ努力を積み重ねていくことが望まれる。					
科目のねらい・授業目標					
臨床現場で必要となる各疾患の病態を修得して診療を実践していくために、人体を構成する臓器や組織がどのように形成・構築され(解剖)、どのような機能を担っているか(生理)について統合的に理解する。 1) 主要器官・組織の正常機能とその仕組みの概要を説明できる。 2) 疾患の多くは正常構造や機能の異常によって生じることを理解する。 3) 病態生理学の理解につながるような知識・考え方を身につける。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	循環器			講義	
2回目	循環器			講義	
3回目	循環器			講義	
4回目	呼吸器			講義	
5回目	呼吸器			講義	
6回目	呼吸器			講義	
7回目	消化器			講義	
8回目	消化器			講義	
9回目	消化器			講義	
10回目	泌尿器			講義	
11回目	生殖器			講義	
12回目	生殖器			講義	
13回目	内分泌			講義	
14回目	内分泌			講義	
15回目	内分泌			講義	
16回目	試験				
評価方法					
試験の成績および出席状況を加味し、総合的に評価する。講義中に小テストなどの形成試験を行う場合にはあらかじめ通知する。					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院					
参考文献					
トートラ人体の構造と機能(丸善)、人体の解剖生理学(金芳堂)、解剖生理学(南山堂)					

科目名		講義担当		所属	
からだの仕組みと働きⅢ		板東 良雄		秋田大学大学院医学系研究科	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
教科書等をあらかじめ見ておき、学習する内容についてある程度イメージできていることが望ましい。この科目は医学の根幹をなし、すべての科目に関連しているといっても過言ではないため、本来は試験に受かることが目的ではなく実際に臨床でも使える知識を身につけることが重要である。しかしながら、知識量が膨大で講義を一度聞いたくらいではなかなか理解できず、まとめて短期間に修得するのも難しい。そのため、多くの学生が国家試験前でも苦手としているので、日々少しずつ努力を積み重ねていくことが望まれる。					
科目のねらい・授業目標					
臨床現場で必要となる各疾患の病態を修得して診療を実践していくために、人体を構成する臓器や組織がどのように形成・構築され(解剖)、どのような機能を担っているか(生理)について統合的に理解する。 1) 主要器官・組織の正常機能とその仕組みの概要を説明できる。 2) 疾患の多くは正常構造や機能の異常によって生じることを理解する。 3) 病態生理学の理解につながるような知識・考え方を身につける。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	神経(中枢神経)			講義	
2回目	神経(中枢神経)			講義	
3回目	神経(末梢神経)			講義	
4回目	神経(末梢神経)			講義	
5回目	神経(自律神経)			講義	
6回目	感覚器・皮膚			講義	
7回目	感覚器・皮膚			講義	
8回目	試験				
評価方法					
試験の成績および出席状況を加味し、総合的に評価する。講義中に小テストなどの形成試験を行う場合にはあらかじめ通知する。					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院					
参考文献					
トートラ人体の構造と機能(丸善)、人体の解剖生理学(金芳堂)、解剖生理学(南山堂)					

科目名		講義担当		所属	
形態機能学		佐々木 寿美礼 杉本 緑		秋田市医師会立秋田看護学校 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1 年次前期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
受講上の留意点					
テキストの講義該当箇所を一読し、予習しておくこと。別途事前学習が必要な場合は前もって提示する。					
科目のねらい・授業目標					
人間が日常生活を営む上で、どのように身体の構造と機能を使い、生活者として暮らしているかを学び、援助技術の基礎とする。 看護実践に生かすために身体の作用機序・調整機構など正常な身体の基礎知識を理解する。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	認識し判断し記憶する…神経系① 中枢神経系(脳・脊髄)			講義	教科書 資料
2 回目	情報を伝える…神経系② 末梢神経系(脳神経・脊髄神経・自律神経)			講義	教科書 資料
3 回目	動く…運動器① 骨格・骨格筋・関節、反射・随意運動のメカニズム			講義	教科書 資料
4 回目	動く…運動器② 筋の収縮機構、日常生活での基本的動きと骨・骨格筋・関節との関連			講義	教科書 資料
5 回目	話す・見る・聞く・触る…感覚器 眼と視覚、耳と聴覚、鼻と嗅覚、舌と味覚、皮膚と触覚			講義	教科書 資料
6 回目	食べる…消化器① 嚥下のしくみ、口腔、食道、胃、小腸、大腸			講義	教科書 資料
7 回目	食べる…消化器② 肝臓、胆嚢、胆管、膵臓、消化・吸収のしくみ			講義	教科書 資料
8 回目	流通の媒体…血液 血液の成分と機能、血液凝固・免疫系			講義	教科書 資料
9 回目	流通の原動力…循環器 心臓、血管、リンパ、血圧の調節のしくみ			講義	教科書 資料
10 回目	息をする…呼吸器 外呼吸と内呼吸、ガス運搬、呼吸運動と調節のしくみ			講義	教科書 資料
11 回目	トイレに行く…泌尿器① 腎臓の機能、尿の生成と再吸収、排泄のしくみ			講義	教科書 資料
12 回目	トイレに行く…泌尿器② 浸透圧と体液量調節			講義	教科書 資料
13 回目	ホルモンのはたらき…内分泌系① ホルモンの作用機序、全身の内分泌腺とその作用			講義	教科書 資料
14 回目	ホルモンのはたらき…内分泌系② ホルモンによる恒常性維持のしくみと調節			講義	教科書 資料
15 回目	子どもを産む…生殖器 生殖器の機能と性周期、生殖・発生			講義	教科書 資料
16 回目	試 験				
評価方法 筆記試験 70点(佐々木担当分)+30点(杉本担当分):合計 100 点					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院					
参考文献 菱沼典子、形態機能学 生活行動からみるからだ、日本看護協会出版会 菱沼典子、形態機能学ワークブック 体験して考える からだのいとなみ 日本看護協会出版会					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名		講義担当		所属	
生化学		塚田 三香子		前職 聖霊女子短期大学 生活文化科	
履修時期	1 年前・後期	単位数	1 単位	時間数	30時間
受講上の留意点 ・レポート(問題演習)を必ず提出すること ・レポート(問題演習)の誤りを復習すること					
科目のねらい・授業目標 1. 生命現象が化学反応であることを理解する。 2. 生命の維持に必要な栄養素の代謝について全体像を理解する 3 遺伝情報発現の仕組みを理解する					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	生体を構成する分子細胞の構造・機能			講義	教科書第 1 章
2 回目	酵素と補酵素・ビタミン			講義	教科書第 2 章
3 回目	糖質の構造			講義	教科書第 3 章
4 回目	糖質の代謝			講義	教科書第 4 章
5 回目	脂質の種類と構造			講義	教科書第 5 章
6 回目	脂質の代謝			講義	教科書第 6 章
7 回目	タンパク質の構造			講義	教科書第 7 章
8 回目	タンパク質の代謝			講義	教科書第 8 章
9 回目	ポルフィリン代謝と異物代謝			講義	教科書第 9 章
10 回目	遺伝の仕組み			講義	教科書第 10 章
11 回目	DNA の複製			講義	教科書第 11 章
12 回目	DNA の mRNA への転写			講義	教科書第 12 章
13 回目	mRNA からタンパク質への翻訳			講義	教科書第 13 章
14 回目	ホルモンとその機序			講義	教科書第 14 章
15 回目	がんとがん抑制遺伝子			講義	教科書第 15 章
16 回目	試験				
評価方法 ・レポート(問題演習)50%、筆記試験 50%					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [2] 生化学					
参考文献 不足する資料があればその都度配付					

科目名		講義担当		所属	
栄養学		新田 智子		秋田大学大学院 医学系研究科・医学部(調達課)	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 看護の対象となる人々の健康の保持・増進・あるいは回復のために健康な食生活が営まれるように援助するための専門知識を学ぶ。 1. 栄養とは 2. 栄養素の役割 3. 栄養所要量とエネルギー代謝 4. 食事療法の基礎					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	人間栄養学と看護 栄養素の種類とはたらき			講義	
2 回目	食物の消化と栄養素の吸収・代謝			講義	
3 回目	エネルギー代謝 食事と食品			講義	
4 回目	栄養ケア・マネジメント 栄養状態の評価・判定			講義	
5 回目	ライフステージと栄養			講義	
6 回目	臨床栄養			講義	
7 回目	臨床栄養、健康づくりと食生活			講義	
8 回目	試験				
評価方法					
筆記試験					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[3] 栄養学 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
微生物学		原田 誠三郎		前職 秋田県総合保健事業団	
履修時期	1 年後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
受講上の留意点					
予習・復習を十分に行うこと。					
科目のねらい・授業目標					
微生物の基礎、感染とその防御および病原微生物に関連する事項について理解する					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	微生物と微生物学 細菌の性質			講義	
2 回目	細菌の性質 ウイルスの性質			講義	
3 回目	真菌の性質 感染と感染症			講義	
4 回目	感染と感染症 感染に対する生体防御機構			講義	
5 回目	感染に対する生体防御機構			講義	
6 回目	感染に対する生体防御機構 滅菌と消毒、感染症の検査と診断			講義	
7 回目	感染症の検査と診断 感染症の治療			講義	
8 回目	感染症の治療 感染症の現状と対策			講義	
9 回目	感染症の現状と対策 病原細菌と細菌感染症			講義	
10 回目	病原細菌と細菌感染症			講義	
11 回目	病原細菌と細菌感染症			講義	
12 回目	病原細菌と細菌感染症、 病原ウイルスとウイルス感染症			講義	
13 回目	病原ウイルスとウイルス感染症			講義	
14 回目	病原ウイルスとウイルス感染症 病原真菌と真菌感染症 寄生虫と衛生動物			講義	
15 回目	寄生虫と衛生動物			講義	
16 回目	試験				
評価方法					
筆記試験					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[4] 微生物学					
参考文献					
参考図書 標準微生物学第 15 版 (編集) 錫谷達夫、松本哲哉 医学書院					

科目名		講義担当		所属	
病態学総論		川村 公一		早稲田大学先進理工学部	
履修時期	1年前期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標					
病気は「得体のしれないもの」ではない。体の中に正常とは異なる出来事が生じている。その病気にはそれなりに流れがあって、その振る舞いも予測ができる。この体の中に起きている病気の山を眺め、大きな道筋をつかむ。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	講義の進め方 1. 病気のときに、どのようなことが体の中に起きているか把握ができれば、患者との対応が変わってくるはずである。この病気の成り立ちについて画像・イラストなどを使って説明をする。 2. 授業内容のパワーポイントのデータは事前に配付する。図書館にある参考書などを活用して、復習を主体とする自主学習を促す。 3. 質問は、随時歓迎する。勿論授業中でもオーケーである。 講義の計画 1. 疾患の成り立ち、生活習慣病 2. 壊死、創傷治癒 3. 血栓と塞栓 4. 浮腫の原因 5. 感染症と炎症 6. 心筋梗塞と脳卒中 7. 腫瘍の発生と分類			講義	
2 回目					
3 回目					
4 回目					
5 回目					
6 回目					
7 回目					
8 回目	試験				
評価方法					
筆記試験（学習課題は講義で提示する）					
使用するテキスト					
参考図書 土居健太郎、系統看護学講座 病態生理学(医学書院) 大橋健一他、系統看護学講座 病理学(医学書院) 深山正久、はじめの一步のイラスト病理学(羊土社)など					

科目名		講義担当		所属	
呼吸器の病態論		伊多波 未来 福井 伸		秋田赤十字病院 秋田厚生医療センター	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標					
・呼吸器障害の特徴と治療・検査について理解する。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	1 呼吸器系の基礎 1)呼吸器の構造と機能 2)症状とその病態について			講義	伊多波未来
2 回目					
3 回目					
4 回目					
5 回目	2 呼吸器系の臨床 1)診断・検査・治療・処置について (1)検 査 画像・内視鏡・生検 (2)治療・処置 吸入療法・酸素療法・ 胸腔ドレナージ・手術療法			講義	福井 伸
6 回目					
7 回目					
8 回目					
9 回目					
10 回目					
11 回目	2)疾患の理解 (1)感染症 (2)間質性肺疾患・起動疾患・呼吸器不全・肺腫瘍・ 胸膜疾患			講義	福井 伸
12 回目					
13 回目					
14 回目					
15 回目					
16 回目	試験				
評価方法					
試験は 2 回行う。 前期 伊多波(40 点)＋福井(60 点)、後期 福井(100 点)					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [2]呼吸器 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
循環器の病態論		阿部 芳久		市立秋田総合病院	
履修時期	1年前・後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標					
循環器機能障害の特徴と治療・検査について理解する。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	1 心臓の解剖と生理 特に肉眼的解剖 (この理解があって初めて次のステップへ進める。) 2 虚血性心疾患 1) 動脈硬化の成因(危険因子とその管理を含む) 2) 狭心症の病態、診断、治療 3) Acute Coronary Syndrome(急性冠症候群)の病態、診断、治療 3 不整脈 1) 心臓刺激伝導系の理解と心電図上の意味 2) 徐脈性不整脈の病態、診断、治療 3) 頻脈性不整脈の病態、診断、治療 4) 致死性不整脈の理解 4 高血圧 1) 血圧とは何か？ 2) 血圧の正しい測り方 3) 高血圧の治療はなぜ必要か 5 心不全 右心不全、左心不全、両心不全の病態、基礎疾患の理解 6 血管疾患 閉塞性動脈硬化症、大動脈瘤、肺梗塞の理解 7 過去の国家試験問題の解説			講義	
2 回目					
3 回目					
4 回目					
5 回目					
6 回目					
7 回目					
8 回目					
9 回目					
10 回目					
11 回目					
12 回目					
13 回目					
14 回目					
15 回目					
16 回目	試験				
評価方法 筆記試験によるが授業態度も加味する					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[3]循環器 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
消化器の病態論		松澤 尚徳 中根 邦夫 辻 剛俊 津田 聡子 菅原 佳恵		市立秋田総合病院	
履修時期	1年前・後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標					
消化器機能障害の特徴と治療・検査について理解する。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	1 消化器系の機能障害の基礎 1)栄養の摂取・吸収の障害 2)消化器機能の障害 2 消化器系の臨床 1)特有な症状:嚥下困難・食欲不振・胸やけ・嘔吐 ・下血・黄疸 2)特有な検査:造影・内視鏡・生検・超音波 3)特有な治療・処置:薬物療法・食事療法・手術療法 ・放射線療法 3 消化器疾患の症状・検査 1)上部消化器疾患 食道癌・胃癌 2)下部消化器疾患 イレウス・大腸癌・直腸癌 3)胆嚢 胆嚢炎・胆嚢癌 4)肝臓 肝臓炎・肝臓癌 5)膵臓 膵炎・膵癌			講義	
2 回目					
3 回目					
4 回目					
5 回目					
6 回目					
7 回目					
8 回目					
9 回目					
10 回目					
11 回目					
12 回目					
13 回目					
14 回目					
15 回目					
16 回目	試験				
評価方法 筆記試験					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [5] 消化器 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
腎・泌尿器の病態論		佐藤 良延 石田 俊哉		おのば腎泌尿器科クリニック 市立秋田総合病院	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
人体の構造、人体の機能、循環器の病態を理解しておくこと。					
科目のねらい・授業目標					
排泄機能障害の特徴と治療・検査について理解する。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	I 腎（15時間） 1)腎の解剖 2)腎の生理・働き 3)腎機能検査および腎機能障害時の症状尿・血液・画像検査など 4)腎障害時の特有な疾患 ①急性腎不全 ②慢性糸球体腎炎 ③慢性腎不全 5)治療 ①食事療法 ②薬物療法 ③透析療法 II 泌尿器・生殖器（15時間） 特有な疾患のポイントを国家試験などから絞り込んで講義する。 1. 泌尿器機能障害の病態生理 1)暴行腫瘍・膀胱癌・腎盂尿管癌・腎癌 2)尿路の疾患・失禁・神経因性膀胱 3)結石 2. 生殖器機能障害の病態生理 1)前立腺肥大症・前立腺癌・精巣腫瘍 2)性器の腫瘍・不妊症 3. 症 状 ・勃起障害・生殖器異常 4. 検 査 ・生検・外内診 5. 治療・処置 ・化学療法・放射線療法・ホルモン療法・手術療法			講義	
2回目					
3回目					
4回目					
5回目					
6回目					
7回目					
8回目					
9回目					
10回目					
11回目					
12回目					
13回目					
14回目					
15回目					
16回目	試験				
評価方法 筆記試験 佐藤（50％）、石田（50％）					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
内分泌・代謝・造血の病態論		三浦 岳史 山口 昭彦		市立秋田総合病院 前職 秋田郵政健康管理センター	
履修時期	2年前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標					
内部環境調節機能障害の特徴と治療・検査について理解する。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	内分泌・代謝（20時間） 1 内分泌器官の基礎 2 代謝器官の基礎 3 体液調節の障害と治療・検査 4 自律神経機能の障害と治療・検査 5 内分泌機能の障害と治療・検査 甲状腺疾患・甲状腺クリーゼ 1)症 状 頻脈・発汗・体重減少・全身倦怠感 2)検 査 画像診断 3)治 療 薬物療法・食事療法・放射線療法・手術療法 6 代謝機能の障害と治療・検査 1)糖尿病(病態・合併症・治療) 2)脂質異常症 3)肥満とメタボリックシンドローム 4)尿酸値代謝異常 造血（10時間） 1 造血のしくみと疾患のメカニズム及び治療を学ぶ。 1)造血のしくみ 2)血液疾患のメカニズム 3)血液疾患の治療 2 血液疾患の特徴と検査・治療について理解する。 1)主要症状 貧血・出血傾向・脾腫・リンパ節腫脹 2)検 査 末梢血検査・マルク・リンパ節生検 3)診断・治療 化学療法・造血幹細胞移植			講義	
2 回目					
3 回目					
4 回目					
5 回目					
6 回目					
7 回目					
8 回目					
9 回目					
10 回目					
11 回目					
12 回目					
13 回目					
14 回目					
15 回目					
16 回目	試験				
評価方法 筆記試験					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [6] 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [4] 血液・造血器 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
脳神経の病態論		猪股 拓海		市立秋田総合病院	
履修時期	2年前期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標					
脳神経機能障害の特徴と治療・検査について理解する。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	脳・神経・筋肉疾患のうち代表的な疾患につき、テキストを中心にプリントや視聴覚機器を用いて講義する。 1. 症状とその病態生理 1)意識障害・高次脳機能障害・運動機能障害・言語障害 2. 検査と治療 1)神経学的検査 2)画像 3)手術療法 4)薬物療法 5)リハビリテーション療法 6)化学療法・放射線療法 3. 疾患の理解 1)脳血管障害 2)脳変性疾患 3)神経筋疾患 4)脳腫瘍 5)膠原病			講義	
2回目					
3回目					
4回目					
5回目					
6回目					
7回目					
8回目	試験				
評価方法					
筆記試験					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [7] 脳・神経 医学書院					
系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [11] アレルギー・膠原病・感染症 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
運動器の病態論		柏 倉 剛		藤原記念病院	
履修時期	2年前期	単位数	1 単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標					
運動機能障害の特徴と治療・検査について理解する					
授業回数	学習内容		方法	備考	
1 回目	運動器の構造と機能		講義		
2 回目	症状とその病態生理		講義		
3 回目	診断・検査と治療・処置（1）		講義		
4 回目	" （2）		講義		
5 回目	疾患の理解（1）		講義		
6 回目	" （2）		講義		
7 回目	" （3）		講義		
8 回目	試験				
評価方法					
筆記試験					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [10] 運動器 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
生殖器の病態論		軽部 裕子		市立秋田総合病院	
履修時期	2年前期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標					
生殖機能障害の特徴と治療・検査について理解する。 1. 女性生殖器をつかさどる器官の機能の障害 2. 正常な妊娠・分娩・産褥の経過と起こりやすい異常について理解する。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	女性生殖器の構造、機能			講義	
2 回目	女性生殖器疾患の理解			講義	
3 回目	女性生殖器疾患の理解			講義	
4 回目	出生前からのリプロダクティブヘルス			講義	
5 回目	妊娠期 身体的特性			講義	
6 回目	妊婦と胎児アセスメント、疾患			講義	
7 回目	分娩期・産褥期特性、疾患			講義	
8 回目	試験・まとめ				
評価方法					
筆記試験(10 割)					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [9] 女性生殖器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 母性看護学 [2] 母性看護学各論 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
小児の病態論		武田 修		市立秋田総合病院	
履修時期	2年前期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標					
小児の特徴を理解し、小児疾患各論を一通り学習する。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	「遺伝子・染色体の異常と形態異常」 「新生児の特徴と疾患」			スライドによる 講義	
2回目	「消化器機能障害」 「呼吸器機能障害」			〃	
3回目	「循環器機能障害」 「アレルギー性疾患」			〃	
4回目	「造血機能障害・癌」 「代謝・内分泌機能障害」			〃	
5回目	「腎・泌尿器機能障害」 「免疫疾患・膠原病」			〃	
6回目	「脳神経機能障害」 「神経領域の疾患」			〃	
7回目	「感染症」			〃	
8回目	試験			筆記	
評価方法					
筆記試験					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
精神の病態論		藤枝 信夫		医療法人 清風会 清和病院	
履修時期	2年後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標					
精神の健康障害の特徴と治療・検査について理解する。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	精神の機能と障害 (意識・知識など)			講義	
2 回目	精神の機能と障害 (知覚・思考・感情・意欲など)			講義	
3 回目	心因性精神障害 神経症性障害・心因反応			講義	
4 回目	内因性精神障害① 統合失調症			講義	
5 回目	内因性精神障害② 気分障害			講義	
6 回目	外因性精神障害① 器質性・症候性精神障害			講義	
7 回目	外因性精神障害② 物質関連障害・睡眠-覚醒障害			講義	
8 回目	精神科治療論① 身体療法(薬物・電気)			講義	
9 回目	児童・青年期精神医学 (パーソナリティ障害・発達障害を含む)			講義	
10 回目	精神科治療論② 精神療法・社会療法			講義	
11 回目	心理検査と心理療法			講義	
12 回目	ケースワーカー 精神保健福祉法の実践			講義	
13 回目	市立秋田総合病院の臨床			講義	
14 回目 15 回目	映画から学ぶ			ビデオ レポート	
16 回目	試験				
評価方法					
筆記試験					
使用するテキスト					
ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
薬理学		佐々木 修		中通総合病院 薬剤部	
履修時期	2年後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 基本的薬物の薬理作用とその適応・有害作用など薬物療法に関する基礎知識を学び、薬物療法に重要な看護師の役割を理解する。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	薬理学総論①			講義	
2 回目	薬理学総論②			講義	
3 回目	抹消神経系疾患に作用する薬物①			講義	
4 回目	抹消神経系疾患に作用する薬物②			講義	
5 回目	中枢神経系疾患に使用する薬物①			講義	
6 回目	中枢神経系疾患に使用する薬物②			講義	
7 回目	循環器系疾患に使用する薬物①			講義	
8 回目	循環器系疾患に使用する薬物②			講義	
9 回目	抗炎症薬、抗アレルギー薬、免疫治療薬			講義	
10 回目	呼吸器、消化器系疾患に使用する薬物			講義	
11 回目	がん・痛みに使用する薬物			講義	
12 回目	生殖器・泌尿器系、感覚器疾患に使用する薬物			講義	
13 回目	物質代謝に作用する薬物			講義	
14 回目	感染症に使用する薬物、消毒薬			講義	
15 回目	その他、まとめ			講義	
16 回目	試験				
評価方法					
筆記試験					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [3] 薬理学 医学書院					
参考文献					
特になし					

科目名		講義担当		所属	
健康科学		伊藤 善信		秋田市保健所	
履修時期	1年前期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
現代人の健康は、様々な人々の職業活動の上に成り立っているという認識を育て、さらには現代人の健康に科学の果たしている役割を理解してもらう。					
科目のねらい・授業目標					
健康に生活することの大切さや健康保持・増進及び身体環境の基礎を理解する。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	人の心身と健康を知る～その1～			講義	
2回目	人の心身と健康を知る～その2～			講義	
3回目	健康の基礎～その1～			講義	
4回目	健康の基礎～その2～			講義	
5回目	健康の基礎～その3～			講義	
6回目	社会と健康			講義	
7回目	健康観と健康に関する社会の仕組み			講義	
8回目	試験				
評価方法					
筆記試験、出席状況					
使用するテキスト					
健康科学 改訂第2版 南江堂					
参考文献					
① イラスト 健康管理概論 第5版 東京教学社					
② 国民衛生の動向 Vol69 No.9 2022/2023 厚生労働統計協会					

科目名		講義担当		所属	
公衆衛生学		伊藤 善信		秋田市保健所	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点 疾病構造の変化や高齢人口の増加により、人々を取り巻く生活環境や医療は急激に変化し、適切に対応することが課題となっている。「健康」や「公衆衛生」の概念の変遷を知ることが、これからの医療・健康福祉サービスを充実させるための不可欠な基礎知識である。様々な環境因子や生活習慣が及ぼす人への影響を学び、予防することの大切さや公衆衛生活動が人々の健康にどのように寄与しているのかを知る。					
科目のねらい・授業目標 1. 人間を総合的に捉え、人々の健康と質を高めるための基礎的な能力を身につける。 2. 多職種と連携、協力し、少子高齢多死社会における健康の向上に寄与できる能力を身につける。 3. 「健康」や「公衆衛生」の概念について説明できる。 4. 公衆衛生活動が人々の健康にどう寄与しているか、具体例をあげて説明できる。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	公衆衛生の基本的な考え方			講義	
2 回目	公衆衛生の体系と手法			講義	
3 回目	公衆衛生活動の実践(その1)			講義	
4 回目	公衆衛生活動の実践(その2)			講義	
5 回目	健康危機管理			講義	
6 回目	環境と健康			講義	
7 回目	包括的な地域保健			講義・議論	
8 回目	試験				
評価方法 筆記試験、出席状況					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 健康支援と社会保障制度2 医学書院					
参考文献 ① 国民衛生の動向 Vol70 NO.10 2023/2024 厚生労働統計協会 ② 医療情報科学研究所 『公衆衛生がみえる(最新版)』 メディックメディア					

科目名 社会福祉		講義担当 米谷 恭一 伊藤 梅香		所属 前職 秋田中央福祉会 市立秋田総合病院	
履修時期	3年後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点 新聞やマスメディアに関心を払い、人と社会を取り巻く現代社会の問題と課題、支え手の役割を考えてください。					
科目のねらい・授業目標 社会保障と社会福祉の概念と課題と課題を学び、社会福祉制度とサービスを理解する。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	社会保障制度～目的・機能・体系			講義	
2 回目	社会保障制度～法制度・財政・組織			講義	
3 回目	現代社会の変化			講義	
4 回目	社会保障の動向			講義	
5 回目	介護保障制度～創設の背景と概要			講義と質疑	
6 回目	介護保障制度～保健給付と課題			講義と質疑	
7 回目	所得保障の概要			講義	
8 回目	公的扶助論			講義	
9 回目	社会福祉の分野～障害者福祉制度			講義と質疑	
10 回目	社会福祉の分野～児童家庭福祉と少子化			講義と質疑	
11 回目	社会福祉の歴史			講義	
12 回目	社会福祉と医療保障			講義・グループワーク	
13 回目	介護保障制度と医療			〃	
14 回目	社会保障制度／公的扶助 福祉サービスと社会福祉の歴史			〃	
15 回目	社会福祉実践と医療・看護			〃	
16 回目	試験				
評価方法 ① 授業への望む姿勢と振り返りの実施 ② 修了試験					
使用するテキスト 「社会保障・社会福祉～健康支援と社会保障制度3」～(医学書院)					
参考文献 新聞・ネットニュース					

科目名		講義担当		所属	
チーム医療論		成田 雪美		医療法人運忠会 土崎病院	
履修時期	3年前期	単位数	1単位	時間数	15 時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 ・チーム医療の概念を学び、多くの専門職種との連携や協働について理解する ・患者中心の統合的で良質な医療の提供について学ぶ					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	チーム医療とは			講義・グループワーク	
2 回目	専門職とチーム医療			〃	
3 回目	チーム医療における看護職の役割			〃	
4 回目	チーム医療と倫理			〃	
5 回目	チーム医療とコミュニケーション			〃	
6 回目	チーム医療の実践(医療安全・感染管理より)			〃	
7 回目	チーム医療の実際(様々な場面)			〃	
8 回目	試験			〃	
評価方法 授業への参加と態度、レポート(テスト)					
使用するテキスト 実践チーム医療論. 水本清久他 編著. 医歯薬出版株式会社					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
関係法規Ⅰ		籾山 日出樹		前職 学校法人コア学園 秋田リハビリテーション学院	
履修時期	3年前期	単位数	1単位	時間数	15 時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 生活に関連した基本的な法令について概念を理解し、社会における看護を取り巻く法規範・諸制度を理解する。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	1.法の基礎的知識と構成労働行政の仕組み 2.医療法 保健師助産師看護師法・医師法・医療法等について 3.薬事放棄 薬事法・薬物及び劇物取締法 安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律 4.社会福祉関連法規 児童福祉法・老人福祉法・生活保護法 5.労働関連法規 労働基準法・労働安全衛生法・雇用保険等について			講義	
2 回目					
3 回目					
4 回目					
5 回目					
6 回目					
7 回目					
8 回目	試験・まとめ				
評価方法 筆記試験・授業態度					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保険制度[4] 看護関係法令 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
関係法規Ⅱ		菊地 富貴子		公益社団法人秋田県看護協会 訪問看護ステーションあきた	
履修時期	3年 前期	単位数	1単位	時間数	15 時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 看護職の職務の基盤となる法規および諸制度について理解し、臨床において正しく職務を遂行するための根拠や判断基準としてそれらを習得する。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	看護法について理解する			講義	
2 回目	看護法について理解する			講義	
3 回目	保健衛生法について理解する			講義	
4 回目	保健衛生法について理解する			講義	
5 回目	社会保険法について理解する			講義	
6 回目	社会保険法、福祉法について理解する			講義	
7 回目	福祉法について理解する			講義	
8 回目	試験 まとめ				
評価方法					
全課程の講義終了後の試験と、受講態度により評価					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保険制度〔4〕 看護関係法令 医学書院					
参考文献					

専門分野

科目名		講義担当		所属	
看護学概論		皆川 千年		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1 年前期	単位数	1 単位	時間数	15 時間
受講上の留意点 看護を学ぶ上で基盤となる科目です。授業を通して看護への興味・関心を高められるよう前向きに取り組みましょう。 演習や課題レポートは調べ学習を行い自分自身の言葉で表現することを目指しましょう。					
科目のねらい・授業目標 看護の基本となる概念を理解し、広い視野で看護の機能、役割を理解する。看護理論や看護に期待されることを学び看護師を目指すものとしての自己の課題を見出す。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	ガイダンス 看護とは(看護の変遷、定義)			講義	使用テキスト①②
2 回目	看護の責務			講義	使用テキスト①② ポストテスト
3 回目	看護の継続性と連携			講義	使用テキスト①② ポストテスト
4 回目	看護の変遷①ナイチンゲールの生涯と功績			講義 演習	使用テキスト①③ ポストテスト
5 回目	看護の変遷②おもな理論家とその概念				使用テキスト①③
6 回目	年表を作成してみよう				発表
7 回目	看護の対象とその理解 人間とは			講義	使用テキスト①③
8 回目	ライフサイクルと健康 (エリクソン、ハヴィガーストの発達理論)			講義	使用テキスト①
9 回目	健康と病気 健康とは、健康の定義、ヘルスプロモーション			講義	使用テキスト①③
10 回目	職業としての看護			講義	使用テキスト①
11 回目	看護職養成制度 (基礎教育・継続教育、キャリア形成)			講義	使用テキスト①②
12 回目	看護をとりまく制度と政策			講義	使用テキスト①②
13 回目	ヘンダーソン看護論を読み解く①			講義 演習	使用テキスト④
14 回目	ヘンダーソン看護論を読み解く②				使用テキスト④
15 回目	看護を学ぶ学生としての自己の課題			講義	課題レポート
16 回目	試験			筆記試験	
評価方法 ポストテスト5点×3回、発表5点、課題レポート10点、筆記試験70点 (ポストテストを欠席した場合、発表を欠席した場合は原則としてそれぞれ0点)					
使用するテキスト ①系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1]看護学総論. 医学書院 ②看護職の基本的責務 日本看護協会出版会 ③看護覚え書ー看護であること 看護でないことー 現代社 ④看護の基本となること 日本看護協会出版会					
参考文献 看護学生の勉強と生活 まるごとナビ 自律的に過ごすための23のレッスン 日本看護協会出版会					

科目名		講義担当		所属	
看護倫理		石川 千夏 京野 順子		市立秋田総合病院 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2 年前期	単位数	1 単位	時間数	15 時間
受講上の留意点 倫理学で学んだ倫理の原則について学習してくる					
科目のねらい・授業目標 1. 看護の倫理が意味することと倫理規定について理解できる 2. 倫理の原則について理解できる 3. 看護における倫理の重要性を説明できる					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目 2 回目	倫理の基本的な考え方について理解できる。 ・倫理とは何か ・倫理理論 ・他者理解と対話のための理論			講義 グループワーク 発表	
3 回目	看護倫理の基礎的な考え方について理解できる。 ・看護理論とは何か ・看護倫理の歴史的推移 ・看護の倫理原則 ・看護倫理に関係する重要な言葉 (アドボカシー、協力、ケアリング、尊厳)			講義	
4 回目	保健・医療・福祉の現状と課題について理解できる。 看護職の倫理綱領、看護師の役割と責務 価値観			講義 グループワーク	
5 回目	倫理原則について理解できる。 Jonsen らの 4 分割表 看護職が臨床で直面することの多い臨床倫理問題 ・患者の自己決定支援に関すること SDM(shared decision making)			講義 グループワーク	
6 回目	尊厳について理解できる。 看護職が臨床で直面することの多い臨床倫理問題 ・終末期医療に関すること			講義 グループワーク	
7 回目	看護研究の倫理について理解できる。 ・看護職の研究倫理 ・研究にける倫理的問題 ・倫理的配慮の要点 ・看護研究に必要な倫理的配慮			講義	
8 回目	試験				
評価方法 筆記試験、グループワーク参加態度(石川 40 点、京野 50 点、課題 10 点)					
使用するテキスト 系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院					
参考文献 小西恵美子編集:看護倫理 南江堂					

科目名		講義担当		所属	
看護研究概説		京野 順子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	3 年次後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
受講上の留意点 看護研究は難しそうと苦手意識を持たず、できるだけ肩の力を抜いて、まずは1つ1つのステップを進めていきましょう。					
科目のねらい・授業目標 看護研究の意義・目的、方法、進め方について学び、研究計画書を作成できる。 看護職の研究取組を知り、研究の意識や態度を高める。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目 2 回目	1. 看護研究の意義・目的 2. 研究の意義と方法 1) 質的研究、量的研究 2) 調査研究、事例研究、実験研究、文献研究			講義	
3 回目 4 回目	1. 研究のプロセス 1) テーマの絞り方 2) 研究計画の立案 3) データーの収集法 4) データーの分析方法 6) 研究結果の報告 5) 結果とその解釈			講義	
5 回目 6 回目	1. 文献検討の意義と方法 2. 文献検索をおこなうための 5 つのポイント 1) 文献検索の準備 2) 研究内容のキーワード特定 3) 検索誌の特色と検索方法 4) 文献リストの作成 5) 文献検討と文献カード 3. 文献検索と文献入手方法演習			講義 演習	
7 回目	1. 研究と倫理 1) 基本的人権の擁護 2) 人権擁護のための 3 つの原則			講義	
8 回目	1. 研究計画書作成の意義 2. 研究計画書の内容 1) 研究テーマ 2) 研究の動機・必要性 3) 研究目的 4) 用語の定義 5) 研究方法 6) 倫理的配慮 7) 研究日程			講義	
9 回目 10 回目	1. 研究論文の批評（クリティーク） 2. 研究計画書作成			講義 グループワーク	
11 回目 12 回目 13 回目	1. 看護学会参加 2.			聴講	レポート提出
14 回目 15 回目	1. 研究計画書の発表			発表	研究計画書及び発表資料の提出
16 回目	試験				
評価方法 受講態度 筆記試験（50 点）、研究計画書の作成及び発表（40 点）、課題レポート（10 点）					
使用するテキスト 前田樹海他：APA に学ぶ看護系論文執筆のルール，医学書院					
参考文献 講義に関係のあるものを随時紹介する					

科目名		講義担当		所属	
フィジカルアセスメント		高橋 久美子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1 年前・後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
受講上の留意点					
1. 演習・技術試験に向け、自己学習時間を確保し技術練習をして臨むことが重要。					
2. 実習室の準備・片付けは、注意事項に沿って確実に行うこと。					
科目のねらい・授業目標					
1. ヘルスアセスメントの意義と目的を理解し、必要とされる技術を習得できる					
2. 全体の概観、バイタルサインの観察、計測、系統別アセスメント、心理・社会状態のアセスメントについて理解できる					
3. ヘルスアセスメントによって得られた結果を、実際のケアに結びつけていく態度を養う					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	1. ヘルスアセスメントの意義と目的を理解できる 2. ヘルスアセスメントに必要な技術を理解できる			講義	
2 回目	3. フィジカルアセスメントの基本技術を理解できる 4. フィジカルイグザミネーションについて理解できる			講義	
3 回目	1. バイタルサインの観察に必要な基礎知識を理解できる 2. 計測の意味と定義を理解できる 3. 血圧測定 of 技術を習得できる			講義 グループワーク	
4 回目	バイタルサイン測定 of 技術を習得できる			演習	
5 回目					
6 回目	バイタルサインの基本技術を正しく実施する			技術チェック	
7 回目					
8 回目	ヘルスアセスメント・フィジカルアセスメント・フィジカルイグザミネーションについて振り返りを行い、理解を深めることができる			講義	
9 回目	各器官・系統別のフィジカルアセスメントの基本技術を理解できる 1)呼吸器系 2)循環器・血管系			講義 シミュレーション学習	課題：頭部・頸部（甲状腺・リンパ節）
10 回目	3)乳房・リンパ系 4)腹部・消化器系			講義	課題：眼・耳・鼻・口
11 回目	5)筋・骨格系 6)神経系 7)外皮系			講義	課題：直腸・肛門・生殖器
12 回目	心理・社会状態のアセスメントに関する必要な項目とその内容・記録の仕方を理解できる			講義	
13 回目	フィジカルアセスメントの方法を理解できる			グループワーク	
14 回目	フィジカルアセスメントの技術を習得できる			演習	
15 回目					
16 回目	試験				
評価方法					
筆記試験：80 点 課題プリント・アセスメント記録用紙：20 点					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ 医学書院 看護がみえる フィジカルアセスメント vol.3 メディックメディア					
参考文献					
講義に関係のあるものを随時紹介する					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名		講義担当		所属	
基本的技術Ⅰ		小林 正嘉		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1 年 前期	単位数	1 単位	時間数	15 時間
受講上の留意点					
1.講義には積極的に主体性を持って参加してください。 2.ノートを1冊用意し、受講した日のうちに復習(ノート作り)する習慣をつけましょう。 3.「どうあれば技術として成立するのか」「自分が実践する看護場面に技術は存在するのか」という問いを念頭に置き看護実践できる専門職者となるよう心掛けましょう。					
科目のねらい・授業目標					
履修の目的： 患者－看護師関係を基盤とした看護を実践するために必要な基本的な知識・技術を学ぶ					
目標： 1.「技術」及び「看護技術」の概念や特徴について理解し説明できる 2.看護における「安全・安心・安楽」の概念や重要性について理解し説明できる 3.看護におけるコミュニケーション技術の意義や方法を理解し説明できる					
授業回数	学 習 内 容			方 法	備 考
1 回 目	1.「技術」とは、「看護技術」とは、を知る 「技術」「看護技術」の概念・本質・特徴 2.「看護と技術」「技術と技能」の関係 3.「看護はサイエンスとアートである」の意味 4.「看護技術」の範囲、習得の仕方			講義	事前課題
2 回 目				講義	小テスト
3 回 目	1.看護における「安全」とは 2.「安全」「安心」「安楽」の概念			講義	
4 回 目	1.人間関係の基礎となるコミュニケーションに関する基本的知識 2.看護におけるコミュニケーション技術の重要性 3.効果的な(治療的な)コミュニケーション技術の基本とあり方 4.コミュニケーションに必要な基本的態度			講義	事前課題
5 回 目				講義	小テスト
6 回 目				講義	
7 回 目				講義	小テスト 事後課題
8 回 目	終了試験 まとめ				
評価方法					
講義への参加状況・聴講姿勢、課題への取り組み、小テスト、筆記試験を総合的に評価する					
使用するテキスト					
講義に際し資料を配布します					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
基本的技術Ⅱ		中川 まゆ子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1 年前期	単位数	1 単位	時間数	15 時間
受講上の留意点					
1.事前課題に必ず取り組み講義にのぞむこと 2.看護技術の動画を視聴してのぞむこと					
科目のねらい・授業目標					
1.療養生活の環境を構成する要素を理解し、病室・病床の環境のアセスメントと調整について理解できる 2.ベッド周囲と病床の環境整備、ベッドメイキング、リネン交換の技術を習得できる 3.感染予防の基礎知識が理解できる					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	1.療養生活の環境と環境調整・整備の重要性を理解する 2.病室の環境のアセスメントと調整について理解する			講義	
2 回目	1.ベッド周囲の環境整備を理解する 2.病床を整えることについて理解する			講義	
3 回目	ベッドメイキングの技術を習得する			演習	
4 回目				技術チェック	
5 回目	感染予防の基礎知識を理解する 1)感染源対策、感染経路別対策 2)感染性廃棄物の取り扱い			講義	
6 回目				講義	
7 回目	感染予防・無菌操作の基本技術を習得する			演習	
8 回目	終了試験 まとめ				
評価方法					
講義への参加状況・聴講姿勢、課題への取り組み、筆記試験を総合的に評価します。					
使用するテキスト					
系統看護学講座	専門分野	基礎看護学[2]	基礎看護技術Ⅰ	医学書院	
系統看護学講座	専門分野	基礎看護学[3]	基礎看護技術Ⅱ	医学書院	
参考文献					
看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア					
ベッドまわりの環境学 医学書院					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名		講義担当		所属	
看護過程		藤本 具子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
看護過程の単位を修得することで基礎看護学実習Ⅲの受講可能となる。 看護過程の展開が実施できるように個人ワークやグループワークを積極的に参加すること。					
科目のねらい・授業目標					
1. 看護過程の意義と一連のプロセスを理解できる。 2. 事例患者を用いて看護過程の展開が理解できる。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目 2回目 3回目 4回目 5回目	1.看護過程の意義や目的が理解できる ・看護過程とは 2.ゴードンの機能的健康パターンに基づき アセスメント方法が理解できる ・情報収集と分析方法 3.NANDA-Ⅰを使用し看護診断方法が理解できる ・NANDA-Ⅰを使用し診断を導きく			講義＋ワーク方式 ・2型糖尿病事例を用いてワーク	
6回目 7回目 8回目 9回目 10回目	1.関連図の関連性と書き方が理解できる ・関連図 2.看護診断(問題)の優先順位の考え方が理解できる ・NANDA-Ⅰ使用 3.看護計画の考え方を理解できる ・糖尿病事例の看護計画 4.看護記録のルールを理解できる ・守秘義務 ・倫理的配慮				
冬休み中の課題 *脳梗塞事例を用いて看護展開					
11回目 12回目	脳梗塞の事例を用いてグループワーク アセスメント～看護計画			グループワーク	
13回目	グループ発表				
14回目 15回目	課題事例			個人ワーク	
16回目	試験				
評価方法 筆記試験 課題レポート					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ 医学書院 NANDA－Ⅰ看護診断 定義と分類 医学書院 病期・発達段階の視点でみる 疾患別看護過程 照林社					
参考文献					
看護がみえる vol.4 看護過程の展開 MEDIC MEDIA ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 NOUVELLE HIROKAWA					

科目名		講義担当		所属	
日常生活の援助技術Ⅰ		杉本 緑		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1 年前期	単位数	1 単位	時間数	15 時間
受講上の留意点 1.講義中に提示された事前課題(ワークシート、動画視聴等)に必ず取り組み、講義・演習にのぞむこと 2.演習には学習にふさわしい身だしなみを整えていないと、演習には参加できません。(欠課になります) 3.提示された事前課題を期日までに提出しなかった場合、演習には参加できません。(欠課になります) 4.上記理由、または体調不良中による欠席で演習に参加しなかった場合、後日放課後に補講を行います。					
科目のねらい・授業目標 1.皮膚・粘膜の構造と機能を知り、清潔援助の効果と全身への影響を理解できる。 2.清潔援助の方法選択の視点を理解し、全身の皮膚の清潔を保持する方法を習得できる。 3.病床での衣生活の基礎知識を理解し、寝衣交換の援助技術を習得できる。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	1.清潔の援助の基礎知識 皮膚粘膜の構造と機能、清潔援助の効果 2.入浴・シャワー浴 3.洗髪 4.手浴・足浴			講義	課題あり 動画あり
2 回目 3 回目	基本的援助技術 ① 洗髪：洗髪台で椅子を用いて行う方法(前屈位) ② 手浴：ベッド上での手浴(ファウラー位) ③ 足浴：車いすでの足浴(関節の自動他動運動の援助を含む) 安楽の促進・苦痛の緩和 ① 足浴：ベッド上での安楽目的の足浴(マッサージ、アロマテラピー)			演習	レポートあり
4 回目	1.全身清拭 2.整容(洗面、眼・耳・鼻の清潔、爪切り、ひげそり) 3.病床での衣生活の援助			講義	課題あり 動画あり
5 回目	基本的援助技術 ① 全身清拭：臥床患者 ② 寝衣交換：和式寝衣。点滴・ドレーンなし、留置針あり			演習	レポートあり
6 回目 7 回目	全身清拭・寝衣交換			技術試験	
8 回目	試験とまとめ			筆記試験	
評価方法 筆記試験(80%)、演習の事前事後レポート(20%) ※上記留意点 2,3 該当は未提出扱い					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院					
参考文献 看護が見える①基礎看護技術					

科目名		講義担当		所属	
日常生活の援助技術Ⅱ		中川 まゆ子 杉本 緑		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1 年前期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
受講上の留意点					
1.事前課題に必ず取り組み講義にのぞむこと、演習は看護技術の動画を視聴してのぞむこと					
2.演習には学習にふさわしい身だしなみを整えていないと、演習には参加できません。(欠課になります)					
3.提示された事前課題を期日までに提出しなかった場合、演習には参加できません。(欠課になります)					
4.上記理由、または体調不良中による欠席で演習に参加しなかった場合、後日放課後に補講を行います。					
科目のねらい・授業目標					
1.姿勢に関する基礎知識、ボディメカニクスの原理が理解できる					
2.様々な体位とその体位保持の目的を理解し、体位変換の援助技術を習得できる					
3.移乗・移送の援助やその方法を理解し、援助技術を習得できる					
4.睡眠と睡眠障害について理解し、具体的な援助方法について理解できる					
5.食事援助の基礎知識を理解し、食事摂取の援助技術を習得できる					
6.排泄援助の基礎知識を理解し、排泄の援助技術を習得できる					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	1.基本的活動の基本的知識を理解する 1)移動技術とボディメカニクス			講義	
2 回目	2)姿勢と動作 3)体位保持・体位変換 4)基本的活動への援助			講義	
3 回目	2.睡眠と休息に関する援助について理解する 1)睡眠の生理 2)睡眠と休息への援助			講義	
4 回目	体位変換・移動の技術を習得できる			演習	
5 回目	1.食事摂取および食事援助に関する基礎知識 2.摂食・嚥下訓練			講義	
6 回目	3.非経口的栄養摂取の援助 (経鼻胃チューブの挿入、経管栄養法)				
7 回目	(中心静脈栄養法)				
8 回目	1.食事摂取の介助技術(嚥下障害なし)			演習	
9 回目	2.口腔ケアの技術				
10 回目	1.排泄のメカニズムとアセスメント			講義	
11 回目	2.自然排尿および自然排便の介助 (床上、ポータブル、オムツ)				
12 回目	3.一時的導尿、持続的導尿の援助 4.排便を促す援助、浣腸、摘便				
13 回目	陰部洗浄・オムツ交換の技術			演習	
14 回目	浣腸の技術			演習	
15 回目	一時的導尿、膀胱留置カテーテルの挿入の技術			演習	
16 回目	終了試験				
評価方法					
筆記試験 70%(中川 20 点、杉本 50 点)、演習レポート 30% ※上記留意点 2,3 該当は未提出扱い					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
診療の補助技術Ⅰ		杉本 緑		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
1.講義には積極的に主体性を持って参加してください。 2.ノートを1冊用意し、受講した日のうちに復習(ノート作り)する習慣をつけましょう。					
科目のねらい・授業目標					
患者が安全・安楽に診療を受けるために必要な診療補助技術について理解する。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	診察・検査・処置における技術 1. 診察の介助 2. 検査・処置の介助(心電図モニターの操作・管理)			講義	
2回目	呼吸・循環を整える技術① 1. 酸素療法(酸素ボンベの操作・管理) 2. 排痰ケア(体位ドレナージ) 3. 胸腔ドレナージ 4. 吸入(ネブライザーの使用) 5. 人工呼吸療法(人工呼吸器) 6. 体温管理の技術(体温調整の援助) 7. 末梢循環促進ケア			講義	
3回目				講義	
4回目	創傷管理技術 1. 創傷管理の基礎知識 2. 創傷処置(ドレーン類の挿入部の処置、創洗浄、創保護包帯法、三角巾) 3. 褥瘡予防(褥瘡予防ケア)			講義	
5回目				講義	
6回目	呼吸・循環を整える技術② 排痰ケア(口腔内・鼻腔内吸引、気管内吸引)			講義	
7回目	口腔内・鼻腔内・気管内吸引の技術			演習	
8回目	終了試験				
評価方法					
筆記試験(100%)					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
診療の補助技術Ⅱ		高橋 久美子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2年後期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点 1.事前課題に必ず取り組み講義にのぞむこと 2.看護技術の動画を視聴してのぞむこと					
科目のねらい・授業目標 診療補助技術の意義と方法を理解し、根拠に基づきながら実践できる技術を習得する					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	診療に伴う技術について理解する 1.診察の介助 2.各検査(生体検査・検体検査)の目的 3.検査時・処置時の看護師の役割			講義	
2回目				講義	
3回目	与薬に伴う基礎知識および技術について理解する 1.与薬実施上の原則 2.与薬時の看護師の役割			講義	
4回目				講義	
5回目	筋肉内注射の技術を習得できる			演習	
6回目	点滴静脈内注射の技術を習得できる			演習	
7回目	輸血法に関する基礎知識を理解する			講義	
8回目	終了試験 まとめ				
評価方法 講義への参加状況・聴講姿勢、課題への取り組み、筆記試験を総合的に評価します。					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院					
参考文献					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名		講義担当		所属	
秋田を知る		新堀 道生 丸谷 仁美 藤中 由美 千田 育栄 中川 まゆ子		秋田県立博物館 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1 年前期	単位数	1 単位	時間数	15 時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標					
1.秋田の歴史、特性を理解する。 2.秋田で暮らす人々の生活環境(食文化・居住文化・芸術文化・自然)を理解する。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	秋田の歴史について理解する			講義	
2 回目	秋田の食文化について理解する				
3 回目	秋田の自然環境について理解する				
4 回目	秋田の先人について理解する				
5 回目	秋田市の芸術・食文化・環境・住環境について調べ、秋田市の生活環境を理解する。			フィールドワーク	フィールドワークに関しては、別紙資料配布
6 回目	午前：各グループにわかれフィールドワーク 午後：まとめ・発表				
7 回目					
8 回目					
評価方法					
課題レポート					
使用するテキスト					
なし					
参考文献					
なし					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名		講義担当		所属	
暮らしの理解		中川 まゆ子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1 年前期	単位数	1 単位	時間数	15 時間
受講上の留意点					
調べ学習を中心としたグループワークを実施する。					
科目のねらい・授業目標					
地域で暮らしている人々の暮らす環境を理解できる。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	生活している人々のライフステージと発達課題を理解できる。 1)人生 2)家族・家庭 3)生涯発達			講義	
2 回目					
3 回目					
4 回目	高年齢者の現状と課題を理解できる。 1)高年齢者の現状と課題 2)身体的特徴 3)高年齢社会			講義 グループワーク	
5 回目	私たちの生活と福祉を理解できる。 1)福祉のとらえ方 2)社会保障 3)共生				
6 回目	食生活の課題について理解できる。 1)食えるとは 2)栄養と食品、栄養バランス 3)安全と衛生				
7 回目	衣・住生活の役割を理解できる。 1)着る 2)衣生活と環境			講義	
8 回目	経済の役割を理解できる。 1)家庭の経済生活 2)消費者の権利と責任				
試験・まとめ					
評価方法					
課題レポート					
使用するテキスト					
なし					
参考文献					
講義に関係のあるものを随時紹介する					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名 地域・在宅看護概論		講義担当 佐藤 聡美 藤本 具子		所属 前職中通高等看護学院 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1 年前期	単位数	1 単位	時間数	15 時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 多様性のある暮らしの中で、在宅看護の役割と必要性を理解できる。 地域・在宅看護の対象である家族を理解できる。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目 2 回目	地域・在宅看護の概念が理解できる。 ＝第 1 章＝ 1)地域・在宅看護の基盤となる考え方 2)地域・在宅看護に求められる役割 暮らしを基盤とした地域を理解できる。 ＝第 2 章＝ 1)地域の多様性 2)システム理論とシステム思考 3)地域包括システム			講義	
3 回目 4 回目	地域・在宅看護の対象者を理解できる。 ＝第 3 章＝ 1)ライフステージによる多様性 2)家族の特徴 暮らしを支える看護が理解できる。＝第 4 章＝ 1)暮らしの環境を整える看護 2)看護の提供方法 3)ライフステージに応じた看護			講義	
5 回目	地域・在宅看護実践の場と多職種連携を理解できる。 1) おもな地域・在宅看護の実践の場 2) 地域・在宅看護における多職種連携			講義	
6・7 回目	事例を通して、家族看護が理解できる。 1)エコマップの作成			講義 グループワーク	
8 回目	試験				
評価方法					
筆記試験 80 点・課題レポート 20 点					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 1 【医学書院】					
参考文献					

科目名 暮らしと環境		講義担当 八代 雄市 藤本 具子		所属 秋田聖徳会多機能型支援センター第二聖和 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 1.地域・在宅看護に関わる制度とその活用方法が理解できる。 2.多職種連携・多職種チームでの協働を理解できる。 3.地域・在宅看護マネジメントを理解できる。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目 2回目 3回目	各種保険制度が理解できる。 1)介護保険制度・医療保険制度 2)地域在宅看護に関わる医療提供体制 3)訪問看護制度 4)地域保健に関わる法制度 5)高齢者に関する法制度 6)権利保障に関する法制度			講義 グループワーク	
4回目	地域・在宅看護実践の場と多職種連携を理解できる。 1) 地域・在宅看護の実践の場 2) 医療専門職との連携 3) 多職種との連携・協働を考える			講義 グループワーク	
5回目	事例を通して多職種連携を考える。			グループワーク 発表	
6回目 7回目 8回目	障害者の地域で暮ら支える制度と、実践の場での支援を理解できる。 1)障がいの定義 2)障がい者を支える法律と制度 3)実践の場での障がい福祉			講義	
9回目 10回目 11回目 12回目	在宅看護におけるケアマネジメントを理解できる。 1) ケアマネジメントとは 2) 事例によりケアプラン作成			講義 グループワーク 発表	
13回目	在宅療養を支える訪問看護の役割を理解できる。 1) 訪問看護の制度と現状 2) 訪問看護における看護師の役割 3) 訪問看護サービスの展開			講義 DVD視聴	
14回目 15回目	映画『いのちの停車場』視聴			DVD視聴	
16回目	試験				
評価方法 筆記試験 80点・課題レポート 20点					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1【医学書院】 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論2【医学書院】					
参考文献					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名		講義担当		所属	
健康と暮らしを支える技術		田畑 美雪		彩の風訪問看護ステーション	
履修時期	2 年前期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 暮らしの場で看護するために必要な看護援助と、実践するために必要な安全対策と事故防止の知識について理解できる。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	地域在宅看護の展開について理解できる 地域在宅看護の特徴と看護展開 家族のアセスメントと支援 コミュニケーション			講義 グループワーク	嚥下 TPN、 カフティポンプ おむつ交換 ストーマ
2 回目	療養者の暮らしを取りまく安全対策が理解できる リスクマネジメント・暴力・ハラスメント 療養環境調整の必要性が理解できる 療養環境の調整方法とアセスメント			講義 グループワーク	
3 回目 4 回目	日常生活を支える看護を理解できる 食生活・嚥下 経鼻経管栄養法・胃ろうの管理 在宅中心静脈栄養・内服管理			講義	
5 回目 6 回目	排泄・ストーマ			講義 演習	
7 回目 8 回目	清潔・衣生活 フットケア			講義 演習	フットケア スクイーピング 排痰
9 回目 10 回目	在宅における呼吸・循環環境のアセスメント方法が理解できる フジカルアセスメント 呼吸法・HOT 管理・排痰法・人工呼吸器			講義 演習	体位変換 ドレッシング材
11.回目 12 回目 13 回目	創傷管理に関する地域・在宅看護技術が理解できる マットレスの選択・体位変換 テープ・ドレッシング材・薬剤の選定方法 褥瘡・スキンケアのケア方法			講義	
14 回目	地域在宅における時期別の看護について理解できる 内服管理・疼痛コントロール			講義	
15 回目	地域在宅看護における看護実践の考え方が理解できる 多様な場の在宅看護マネジメント			講義	
16 回目	試験				
評価方法 筆記試験 100 点					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論2【医学書院】					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
健康と暮らしを支える看護		佐藤 研		訪問看護ステーション 赤とんぼ	
履修時期	2 年 前期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 地域・在宅看護の特性をふまえた看護過程の展開が理解できる。 訪問を想定したロールプレイを通して、援助方法が理解できる。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目 2 回目 3 回目 4 回目 5 回目	地域・在宅看護における療養者と家族への看護が理解できる。 1)難病がある療養者と家族へのケア 2)慢性疾患のある療養者と家族へのケア 3)精神障害がある療養者と家族へのケア 4)医療的ケア児と家族へのケア 5)認知症がある療養者と家族へのケア 6)エンドオブライフケアの理解			講義	
6 回目 7 回目 8 回目	地域・在宅看護における看護過程とその意義、展開の方法が理解できる。 1)情報収集・アセスメント 2)ICF の考え方 3)情報の解釈方法・判断力 4)立案・計画・実践・評価			講義 グループワーク	
9 回目 10 回目 11 回目 12 回目	療養者とその家族の生活状況について、ICF に基づいた看護展開が理解できる。 1)事例展開 各グループで事例を展開する			グループワーク	
13 回目 14 回目 15 回目	各事例の発表・質疑応答				
評価方法 筆記試験(40 点) 課題レポート(看護過程)(60 点)					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論2【医学書院】					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
成人・老年期の生命の 危機にある人の看護		皆川 千年		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2 年前期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
受講上の留意点 1.授業内容について教科書を読み授業に参加すること。 2.手術経験者に「手術についての思い」、「手術による生き方の変化」についてインタビューをする。(自分を含め、身近に対象者がいる場合) 3.本講義は「成人期・老年期の周手術期実習」に直結する位置付けであるため実習前に習得すること。 4.8～12 回目は各病態論の講義内容を復習の上臨むこと。 5.13、14 回目は演習です。ユニフォーム着用の上参加してください。					
科目のねらい・授業目標 健康レベルの特徴を理解し、生命の維持・回復、生活の再構築と日常生活への適応に向けた看護について理論と方法を学ぶ					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	オリエンテーション/クリティカルな成人・高齢者の特徴と看護			講義	テキスト 1、 資料
2 回目	クリティカルケアにおける生体反応とアセスメント			講義	テキスト 1、 資料
3 回目	クリティカルな状態にある対象の全身管理と日常への支援 (呼吸、体液・循環、体温、栄養、代謝、鎮痛、感染予防)			講義	テキスト 1、 資料
4 回目	術前の看護 (インフォームドコンセント、術前オリエンテーション、身体準備)			講義	テキスト 2、 資料
5 回目	術中の看護 (環境、麻酔導入・覚醒時の看護、直接・間接介助、手術体位)			講義	テキスト 2、 資料
6 回目	術後の看護① (術後モニタリング、術後疼痛、術後回復促進ケア)			講義	テキスト 2、 資料
7 回目	術後の看護② (術後合併症と予防のための看護)			講義	テキスト 2、 資料
8 回目	消化器系・吸収障害を持つ対象の周手術期看護 ① 事例を通して対象を理解する			講義・演習	テキスト 2、3、 資料
9 回目	消化器系・吸収障害を持つ対象の周手術期看護 ② 事例を通して看護展開を考える			講義・演習	テキスト 2、3、 資料
10 回目	運動器障害を持つ対象の周手術期看護 ① 事例を通して対象を理解する			講義・演習	テキスト 2、3、 資料
11 回目	運動器障害を持つ対象の周手術期看護 ② 事例を通して看護展開を考える			講義・演習	テキスト 2、3、 資料
12 回目	周手術期における看護技術			講義・演習	テキスト 2、3、 資料
13 回目 14 回目	術直後の管理 術後早期離床への援助 (気管内挿管、輸液ポンプ、呼吸器合併症予防、深部静脈血栓症予防、術後患者観察のポイント)			演習	テキスト 1、2、3、 資料 実習室使用 ユニフォーム着用
15 回目	試験・まとめ				
評価方法 筆記試験(80%)、演習レポート(10%)、演習参加状況(10%)					
使用するテキスト 1.系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学.医学書院 2.系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 .医学書院 3.系統看護学講座 別巻 臨床外科看護学各論. 医学書院					
参考文献:周手術期看護学習ワークブック(メジカルフレンド社)					

科目名 成人・老年期の生を支え 再構築する看護		講義担当 藤本 具子		所属 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2 年前期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
受講上の留意点 脳・血液・循環器・呼吸器それぞれの解剖生理は各自事前学習を行い望むこと 事例展開し話し合いが多くなるため、事前学習を積極的に行うこと					
科目のねらい・授業目標 1.成人・老年期における慢性期の特徴とセルフケア獲得に向けた看護を理解できる。 2.リハビリテーション期の特徴と対象の看護を理解できる。 3.慢性疾患を抱えながら生活を構築する対象の疾患と看護を理解できる。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	リハビリテーション期の特徴と看護が理解できる			講義	
2 回目	慢性期の特徴と看護が理解できる			講義	
3 回目	脳・神経の症状と看護を理解ができる 事例)脳梗塞事例 5 回目:グループ発表			講義 グループワーク	
4 回目					
5 回目					
6 回目	血液疾患の症状と看護を理解ができる 事例)白血病事例 8 回目グループ発表			講義 グループワーク	
7 回目					
8 回目					
9 回目	循環器機能障害の症状と看護を理解ができる 事例)心不全事例 11 回目グループ発表(グループ評価あり)			講義 グループワーク	
10 回目					
11 回目					
12 回目	呼吸器障害の症状と看護を理解できる 事例)慢性呼吸不全 14 回目グループ発表(グループ評価あり)			講義 グループワーク	
13 回目					
14 回目					
15 回目	事例を用いて個人ワーク 筆記試験+課題レポート			個人ワーク	
16 回目					
評価方法 筆記試験 30 点・課題レポート 50 点・グループ評価20点					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論【医学書院】 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護【医学書院】 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2]呼吸器[3]循環[4]血液・造血器[7]脳・神経【医学書院】					
参考文献 病気・発達段階の視点でみる疾患別看護過程【照林社】 NANDA- I 看護診断 定義と分類【医学書院】 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 NOUVELLE HIROKAWA					

科目名		講義担当		所属	
社会の中の成人看護		皆川 千年		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1 年後期	単位数	1 単位	時間数	15 時間
受講上の留意点 授業内容について教科書を読み授業に参加すること。					
科目のねらい・授業目標					
1. 成人期にある人の身体的・精神的・社会的特徴を理解できる。 2. 成人期にみられる健康障害について、成人の特徴・生活行動と関連づけて考えることできる。 3. 成人の健康レベルに対応した看護について理解できる。 4. 成人への看護に有用な概念について理解できる。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	1. 大人になること、大人であること ・成人の特徴を理解できる →身体的・心理的・精神的な特徴 発達課題の特徴			講義	
2 回目	2. 大人として生きていくこと ・成人の生活を理解できる →家族形態の変化、家族機能 ライフスタイルの特徴			講義 演習	
3 回目	・成人を取り巻く環境について理解できる →社会状況の変化、産業構造・労働環境の変化			講義 演習	
4 回目	3. 成人の健康レベルや状態に応じた看護 ・ヘルスプロモーションと看護について理解できる →健康行動、保健行動			講義	
5 回目	4. 健康バランスに影響を及ぼす要因 ・ストレスと健康生活について理解できる			講義	
6 回目	5. ワーク・ライフ・バランスと健康障害 ・職業に関連する健康問題について理解できる →就労条件・環境と疾病との関係、職業性疾患、作業 関連疾患			講義	
7 回目	6. 生活習慣に関連する健康障害 ・健康をおびやかす要因と看護について理解できる →生活習慣病の要因、健康問題の現状と推移			講義 演習	
8 回目	試験・まとめ			筆記試験	
評価方法					
授業参加状況、筆記試験					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1]成人看護学総論 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会					
参考文献 公衆衛生が見える メディックメディア					

科目名		講義担当		所属	
がんとともに生きる成人看護		伊藤 登茂子		前職 秋田大学大学院医学系研究科	
履修時期	2年次	単位数	1 単位	時間数	30時間
受講上の留意点 学習内容に関連する事前学習への取り組みや疑問点の明確化に努めましょう。 知識を得ると共にがん患者やその家族等が体験する苦痛や苦悩について洞察力を養いましょう。 グループワークでは積極的な意見交換と課題解決のための効果的な運営に協力しましょう。					
科目のねらい・授業目標 1. がん患者と家族の生活に影響をもたらす苦痛や苦悩を理解し、看護の要点を述べることができる。 2. がんとともに生きる経過と患者の年代が、全人的苦痛にもたらす影響や特徴を知り、倫理的視点とともにケアを考えることができる。 3. がん病変や治療に依る症状の苦痛緩和と生活を整える方策について述べるができる。 4. チーム医療の中におけるがん看護の役割・使命について考えを述べるができる。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	がん医療の現状と看護を概観できる			講義	テキスト1. p.2 - p.110 以下「テキスト」省略
2 回目	がん看護や緩和ケアの対象、療養にともなう全人的苦痛とケア、および療養の場について説明できる			講義	1. p.184 - p.208 2. p.2 - p.55 2. p.80 - p.129
3 回目	がん治療を受ける患者の看護 治療と闘病経過における看護の要点について説明できる			講義	1. p.234 - p.246
4 回目	がん治療を受ける患者の看護 手術療法を受ける患者に共通する看護を理解し、その要点が述べられる			講義	1. p.111 - p.127 1. p.247 - p.254
5 回目	がん治療を受ける患者の看護 術後の機能障害・喪失に対するセルフケア支援について述べるができる			講義	1. p.223 - p.226 1. p.254 - p.262
6 回目	がん治療を受ける患者の看護 薬物療法を受ける患者の看護と暴露対策について理解し、その要点が述べられる			講義	1. p.128 - p.158 1. p.262 - p.281
7 回目	がん治療を受ける患者の看護 放射線療法を受ける患者の有害事象対策と治療継続支援、および放射線防護について看護の根拠が理解できる			講義	1. p.159 - p.182 1. p.281 - p.294
8 回目	がん治療を受ける患者の看護 造血幹細胞移植を受ける患者の一連の看護を理解し、倫理的対応と移植関連合併症について説明することができる			講義	1. p.295 - p.312 2. p.58 - p.77
9 回目	外来におけるがん患者と家族の看護 意思決定支援、外来治療上の看護、社会参加支援、および病院内外の関連部署や組織との連携について理解し、ケアの資源と支援方法について述べるができる			講義	1. p.216 - p.223 1. p.226 - p.232 1. p.317 - p.328

授業回数	学習内容	方法	備考
10 回目	臨死期の概念およびがん患者にみられる症状の特徴とケアについて理解し、その要点を述べることができる	講義	2. p.224 - p.233
11 回目	緩和ケアの対象となる患者と家族、およびそのケアについて概要を理解し、課題を明らかにすることができる	講義	1. p.329 - p.346 2. p.152 - p.222 2. p.236 - p.254
12 回目	緩和ケアに携わる医療者のケアについて理解し、自身の考えを述べるができる	講義 グループ ワーク (GW)	2. p.256 - p.265
13 回目	緩和ケアに関する教育と研究について理解することができる	講義	2. p.268 - p.288
14 回目	事例についてグループで検討した結果を発表し、全体で討論することができる	講義 GW 成果発表	1. p.216 - p.223 2. p.130 - p.149
15 回目	事例についてグループで検討した結果を発表し、全体で討論することができる 授業全体を振り返り、知識を統合することができる	講義 GW 成果発表	.
16 回目	試験	講義	
評価方法 授業参加状況・筆記試験			
使用するテキスト 1. 系統看護学講座 別巻 がん看護学. 医学書院 2. 系統看護学講座 別巻 緩和ケア. 医学書院			
参考文献 大西和子 ほか編:がん看護学 臨床に活かすがん看護の基礎と実践, ニューヴェルヒロカワ, 2018. 静岡県立静岡がんセンター がんよろず相談 Q&A : yoroazu_QandA_jpn.pdf (2025.2.18) 国立がん研究センター運営 WEB サイト「がん情報ギフト」			

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名		講義担当		所属	
生きているための成人看護		藤本 具子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2 年前期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
受講上の留意点 各臓器の解剖生理を事前に学習して授業参加すること。					
科目のねらい・授業目標 生きているために必須な呼吸、循環、尿排泄に障害を持つ対象の看護に必要な知識、技術、態度を学ぶ。 1.呼吸機能障害の原因と症状を理解し、対象に応じた看護援助を理解できる。 2.循環機能障害の原因と症状を理解し、対象に応じた看護援助を理解できる。 3.腎臓機能障害の原因と症状を理解し、対象に応じた看護援助を理解できる。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	呼吸と循環の仕組みを理解できる 1)肺・心臓の解剖生理 2)呼吸困難・浮腫の症状別看護			講義	
2 回目	呼吸機能障害をもつ対象の看護が理解できる。 1)治療・症状・検査と看護			講義	
3 回目 4 回目	事例による看護過程の展開 事例)気管支喘息			グループワーク	
5 回目	事例発表			発表	
6 回目	循環機能障害をもつ対象の看護が理解できる。 1)治療・症状・検査と看護 2)ペースメーカー植え込み術を受ける対象の看護			講義	
7 回目				講義	
8 回目 9 回目	事例による看護過程の展開 事例)急性心筋梗塞			グループワーク	
10 回目	事例発表			発表	
11 回目 12 回目	腎臓機能障害をもつ対象の看護が理解できる。 1)治療・症状・検査と看護 2)人工透析と看護			講義	
13 回目 14 回目	事例による看護過程の展開 事例)慢性腎不全			グループワーク	
15 回目	事例発表			発表	
16 回目	試験				
評価方法					
筆記試験 100 点					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2]呼吸器[3]循環器[8]腎・泌尿器. 医学書院					
参考文献					
臨床外科看護総論 臨床外科看護学各論. 医学書院					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名		講義担当		所属	
生きていくための成人看護		佐々木 寿美礼		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2 年前期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
受講上の留意点 ・各疾患の解剖、治療、検査、症状を事前学習し講義に望むこと。					
科目のねらい・授業目標 生きていくために必要な内臓器・運動器・免疫機能に障害をもつ対象の看護に必要な知識・技術・態度を理解できる。 1.内臓障害の症状と原因がわかり、対象に及ぼす影響と看護を理解できる。 2.運動器機能障害の症状と原因がわかり、対象に及ぼす影響と看護を理解できる。 3.内分泌・免疫機能障害の症状と原因がわかり、対象に及ぼす影響と看護を理解できる。 4.脳・神経機能障害の症状と原因がわかり、対象に及ぼす影響と看護を理解できる。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	肝硬変をもつ対象の看護を理解できる。			講義	[5]消化器
2 回目	膵炎をもつ対象の看護を理解できる。			講義	
3 回目	胆のう炎をもつ対象の看護を理解できる。			講義	
4 回目	肝硬変をもつ対象の看護を理解できる。			講義 グループワーク	
5 回目					
6 回目	腰椎椎間板ヘルニアをもつ対象の看護を理解できる。			講義	[10]運動器
7 回目	脳・視床下部・下垂体機能障害をもつ対象の看護を理解できる。			講義	[6]内分泌・代謝
8 回目	甲状腺・副甲状腺機能障害をもつ対象の看護を理解できる。 副腎皮質機能障害をもつ対象の看護を理解できる。 事例)甲状腺機能亢進症			講義 グループワーク	
9 回目					
10 回目					
11 回目	関節リウマチをもつ対象の看護を理解できる。			講義	
12 回目	全身性エリテマトーデスをもつ対象の看護を理解できる。			講義	
13 回目	筋ジストロフィーをもつ対象の看護を理解できる。			講義	[7]脳・神経
14 回目	筋萎縮性側索硬化症の看護を理解できる。			講義	
15 回目	試験				
評価方法 筆記試験・課題レポート					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[5]消化器[6]内分泌・代謝[7]脳・神経[10]運動器. 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
成人看護技術		筒井 あすか 高橋 久美子		市立秋田総合病院 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2 年前期	単位数	1 単位	時間数	15 時間
受講上の留意点					
・疾患の治療、検査、症状を事前学習し講義に臨むこと。 ・技術演習実施のため、演習内容を熟読し演習に臨むこと。					
科目のねらい・授業目標					
対象の健康レベルに応じた必要な知識と看護過程の展開、基本的な技術を理解できる。 1.慢性期における対象のアセスメントができ、看護過程の展開ができる。 2.看護技術、方法を習得できる。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	糖尿病の食事療法・運動療法・合併症予防を理解できる。			講義	[6]内分泌
2 回目	自己血糖測定の方法の実際を理解できる。			講義	[6]内分泌
3 回目	自己血糖測定			演習	
4 回目	糖尿病疾患をもつ対象の看護展開ができる。 事例)糖尿病			講義 看護過程演習 グループワーク 発表	[6]内分泌
5 回目					
6 回目					
7 回目					
8 回目	試験・まとめ				
評価方法					
筆記試験・課題レポート(筒井 50%、高橋 50%)					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [6]内分泌 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
高齢者を支えるための看護		佐藤 聡美		前職 中通高等看護学院	
履修時期	1 年後期	単位数	1 単位	時間数	15 時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標					
高齢者の医療福祉の動向を理解し、対象とその家族に対する看護の役割を理解できる。 1.高齢者の生活と健康問題について理解できる。 2.高齢者の権利擁護を理解できる。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	加齢と老化を理解できる。＝第 1 章＝ 1) 身体的・心理的・社会的側面の変化 2) 高齢者の定義 3) 老年期の発達課題			講義	
2 回目 3 回目	超高齢社会の社会保障が理解できる＝第 2 章＝ 1) 超高齢社会の統計的輪郭 2) 介護保険制度 3) 高齢者医療の仕組み 4) 高齢者の権利擁護			講義	
4 回目	老年看護のなりたちを理解できる。＝第 3 章＝ 1) 老年看護の役割と特徴 2) 老年看護の理論・概念			講義	
5 回目	高齢者のヘルスアセスメントの基本を理解できる。 1) ヘルスアセスメントの基本＝第 4 章＝			講義	
6 回目 7 回目	高齢者の終末期の看護を理解できる。＝第 8 章＝ 1) エンドオブライフケアの概念 2) 生きることを支えるケア 3) 意思決定の支援 4) 末期段階に求められるケア			講義	
8 回目	試験 60 分 100 点				
評価方法					
筆記試験・課題レポート					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
健康障害をもつ高齢者の回復を促す看護		佐藤 聡美		前職 中通高等看護学院	
履修時期	2 年前期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標					
高齢者の加齢変化にともなう健康障害に特徴と看護を理解できる。 1.健康障害をもつ高齢者の特徴を理解できる。 2.高齢者に生じやすい症状と看護を理解できる。 3.認知機能障害のある高齢者を理解する。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1～2 回目	1. 高齢者の加齢変化に伴うヘルスアセスメントを理解する。＝第 4 章＝ 1) 皮膚・視聴覚・感覚 2) 循環系・呼吸器系・消化器系 3) ホルモン分泌・泌尿器生殖器 4) 運動系 ・ロコモティブシンドローム・サルコペニア			講義	
3～6 回目	2. 高齢者によくある症状のアセスメントとその看護を理解する。＝第 6 章＝ 1) 発熱 ・ 痛み 2) かゆみ ・ 脱水 3) 嘔吐 ・ 浮腫 4) 倦怠感 ・ 褥瘡 その他			講義	
7 回目	3. 身体疾患のある高齢者の看護を理解する。 1) 脳卒中			試験 講義	
8～11 回目	2) 心不全 ・ 糖尿病 3) 慢性閉塞性肺疾患 ・ パーキンソン病 4) インフルエンザ ・ 肺炎 5) 骨粗しょう症 ・ 骨折			講義	
12～15 回目	4. 認知機能障害のある高齢者の看護を理解する。 1) うつ 2) せん妄 3) 認知症			講義	
16 回目	試験 60 分 60 点				
評価方法					
筆記試験・課題レポート					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
高齢者のより健康な生活を 支援する看護		佐藤 聡美 藤本 具子		前職 中通高等看護学院 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2年後期	単位数	1単位	時間数	30 時間
受講上の留意点 演習にふさわしい身だしなみでない場合、欠課扱いとなります。					
科目のねらい・授業目標					
1. 高齢者に生じる身体的変化を理解し、生活支援のための看護を理解できる。 2. 高齢者の健康障害の病態と看護を理解する。 3. 紙上事例を用いて健康障害のある高齢者の看護過程の展開ができる。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1 回目	老年症候群とフレイルを理解し、アセスメントと看護が理解できる。 ＝第 5 章＝ 1) 日常生活動作と環境のアセスメントと看護			講義	
2 回目	2) 食事・食生活のアセスメントと看護			講義	
3 回目	3) 排泄のアセスメントと看護			講義	
4 回目	4) 清潔のアセスメントと看護			講義	
5 回目	5) 生活リズムのアセスメントと看護			講義	
6 回目	6) コミュニケーションのアセスメントと看護			講義	
7 回目	試験				
8 回目	日常生活援助技術の支援が理解できる			講義	
9・10 回目	老年体験・入れ歯洗浄・嚥下体操・経管栄養法・摘便			演習	
11 回目 12 回目	パーキンソン病の看護を理解できる。 1) パーキンソン病の病態・検査・治療 2) 看護 3) 事例看護展開			講義 グループワーク	
13 回目	運動機能障害の看護を理解できる 1) 病態・検査・治療・看護 2) 事例看護展開			講義 グループワーク	
14・15 回目	課題レポート 事例展開			講義 グループワーク	
16 回目	試験				
評価方法					
筆記試験 50 点・課題レポート 50 点					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
社会の中でともに育つ子ども		薄田 悦子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2 年前期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
受講上の留意点 子どもをイメージし理解できるように講義に臨み、事前の課題にも主体的に取り組みましょう					
科目のねらい・授業目標 小児看護の対象である小児各期の特徴について学び、小児各期の健康増進のための看護を理解できる。 また、子どもと家族を取り巻く保健・医療・福祉の変遷を知り、小児看護の現状や求められている看護の役割について理解できる。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	1) 小児看護の対象:子どもの特徴、子どもと家族 2) 小児看護の役割 3) 子どもと家族の動向 人口構造、出生と家族、子どもの死亡、子どもの虐待 4) 小児看護の変遷			講義	
2 回目	小児看護における倫理 1) 子どもの権利 2) 倫理原則 3) 小児医療における倫理的課題			講義	
3 回目	子どもの成長・発達の特徴 1) 子どもの成長・発達 2) 子どもの成長・発達の原則 3) 成長・発達に影響を及ぼす因子 4) 形態的発達 5) 機能的発達 6) 心理社会的発達 7) 成長・発達の評価			講義	
4 回目					
5 回目					
6 回目					
7 回目					
8 回目	小児各期の特徴と健康増進のための看護 1) 小児各期の特徴 新生児期・乳児期・幼児期・学童期・思春期 2) 小児各期の養育と健康問題 3) 小児各期の看護			講義	
9 回目					
10 回目					
11 回目					
12 回目	子どもと家族を取り巻く社会 1) 変遷と現在の状況 2) 子どもの医療 3) 法律と政策 児童福祉法、母子保健法、児童虐待防止法、学校保健安全法 4) 小児医療・小児看護の課題			講義	
13 回目					
14 回目					
15 回目	試験とまとめ				
評価方法 筆記試験 100 点					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院					
参考文献 講義に関係のあるものを随時紹介する					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名		講義担当		所属	
健康障害をもつ子どもとその家族		山本 尚樹 杉本 緑		市立秋田総合病院 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2 年前期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
受講上の留意点					
教科書に沿って講義します、メモを取りながら受講して下さい。毎回宿題プリントを配布します、復習して下さい。					
科目のねらい・授業目標					
健康障害が子どもと家族に及ぼす影響と、それに伴う様々な状況および必要な看護が理解できる					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	病気・障害が子どもと家族に与える影響 ・ピアジェ認知発達理論、ストレス反応とコーピング、患者・家族中心のケア ・意思決定支援、シェアードディシジョンメイキング、アドバンスケアプランニング			講義	
2 回目	入院中の子どもと家族の看護 ・病棟の特徴(NICU, GCU, 小児病棟、小児科病棟、混合病棟、プレイルーム) ・完全看護と分離、同胞面会、専門職連携(保育士や学校教諭、遊びや学習支援)			講義	
3 回目	外来における子どもと家族の看護 ・感染対策、予防接種、ディストラクション、プレパレーション、ホームケア指導			講義	
4 回目	在宅療養中の子どもと家族の看護 ・医療的ケアの定義と法律、重度心身障害児の定義、インクルーシブ教育 ・社会資源(訪問、通所: 児童発達支援・放課後等デイサービス、レスパイト入院)			講義	
5 回目	災害時の子どもと家族の看護 ・被災後の子どもの反応(急性ストレス障害、ポストトラウマティックプレイ)			講義	
6 回目	慢性期にある子どもと家族の看護 ・I 型糖尿病(病態、カーボカウント、インスリンポンプ、復学支援、トランジション)			講義	
7 回目	急性期にある子どもと家族の看護 ・喘息(病態、重症度分類、薬物治療、セルフケア教育)			講義	
8 回目	周手術期の子どもと家族の看護 ・鎖肛(病態と手術、人工肛門の管理、病名告知)			講義	
9 回目	終末期にある子どもと家族の看護			講義	
10 回目	・小児がん(病態、集学的治療、骨髄・末梢血・臍帯血移植、長期フォローアップ) ・疼痛管理(非薬物的除痛、PCA ポンプ)、真実告知、死の教育				
11 回目	障害のある子どもと家族の看護 ・国際生活機能分類、ノーマライゼーション ・医療的ケアの管理、緊急時対応、災害対策(人工呼吸器、気管切開、HOT、喀痰吸引、中心静脈栄養、経管栄養: 胃管・胃瘻・腸瘻、透析: 血液・腹膜灌流、導尿)			講義	
12 回目	子どもの虐待と看護 ・児童虐待の定義、統計、法律、被虐待児とその親に対する看護			講義	
13 回目	染色体異常・胎内環境により発症する先天異常と看護 ・常染色体異常(21・18トリソミー)の看護、出生前診断、性染色体異常			講義	
14 回目	救命処置が必要な子どもと家族の看護			講義	
15 回目	ファーストエイド(熱中症・脱水症と熱傷の重症度分類と看護、止血法)			演習	
16 回目	試験				
評価方法					
筆記試験(山本担当分 10%、杉本担当分 90%、合計 100 点)					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院					
系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
子どもの病気と看護		薄田 悦子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2 年後期	単位数	1 単位	時間数	15 時間
受講上の留意点					
講義前には既習した子どもの特徴や疾患など必要な内容を確認して臨むこと 臨地実習で活用する内容ですので、個人の意見を活発に出し合い個別性のある看護立案に向け主体的に取り組みましょう					
科目のねらい・授業目標					
小児期の主な疾患の病態・症状・治療・看護などを理解し、健康障害のある子どもと家族の特性を踏まえた看護過程を展開できる					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	慢性期にある子どもと家族のアセスメントの特徴 1) 小児看護の看護過程の特徴 2) 慢性期の特徴 3) 情報収集および情報の分析・解釈 4) 問題の抽出			講義・演習	
2 回目					
3 回目					
4 回目	急性期にある子どもと家族の看護過程の展開 1) 急性期の特徴 2) 情報収集および情報の分析・解釈 3) 問題の抽出 4) 目標設定および計画立案			講義・演習	
5 回目					
6 回目					
7 回目	事例による看護過程展開の発表			演習	
8 回目	試験・まとめ				
評価方法					
筆記試験(40 点) 看護過程(60点)					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 医学書院 写真でわかる 小児看護技術アドバンス 山元恵子・佐々木祥子 インターメディカ					
参考文献					
講義に関係のあるものを随時紹介する					

科目名		講義担当		所属	
子どものケア		大高 恵美 薄田 悦子		日本赤十字東北看護大学 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2 年後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
受講上の留意点					
事前学習は各自責任をもって取り組みましょう 臨地実習で実践する内容も含まれているため、活用できるようなレポート作成を心掛けましょう					
科目のねらい・授業目標					
1. 健康障害に伴う主な症状と援助方法について説明できる 2. 子どものフィジカルアセスメントに必要な知識・技術について述べるができる 3. 子どもが受ける主な検査・処置と、その援助方法について述べるができる					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	子どもの健康障害に伴う主な症状と援助方法 ： 発熱 ・ 発疹 ・ 嘔吐 ・ 下痢			演習	講義までに事前学 習必要
2 回目				講義	
3 回目	子どもの健康障害に伴う主な症状と看護 ： 脱水 ・ 浮腫 ・ 便秘			講義	
4 回目	子どもの健康障害に伴う主な症状と看護 ： 呼吸困難 ・ チアノーゼ ・ ショック			講義	
5 回目	子どもの健康障害に伴う主な症状と看護 ： 意識障害 ・ けいれん			講義	
6 回目	子どもの健康障害に伴う主な症状と看護 ： 痛み ・ 出血 ・ 貧血 ・ 黄疸			講義	
7 回目	子どものフィジカルアセスメント 1. 子どものアセスメントに必要な技術 身体測定、バイタルサイン測定 2. 子どもの身体的アセスメント 一般状態、眼・耳、顔面・鼻・口腔、呼吸、心臓・血管系、 腹部、筋・骨格系、神経系、生殖器系、リンパ系、皮膚その他			講義	
8 回目					
9 回目	子どものフィジカルアセスメント 身体測定、バイタルサイン測定			演習	別紙演習資料参照 ユニホーム着用
10 回目					
11 回目	子どもが受ける主な検査や処置の特徴と、その援助方法 検体採取（採血・採尿）、穿刺（腰椎穿刺・骨髄穿刺）			講義	
12 回目	子どもの与薬・経管栄養・注射・輸液療法における看護			講義	
13 回目	子どもの呼吸状態緩和における看護 酸素療法・吸入・吸引			講義	
14 回目	子どもの点滴固定と輸液管理			演習	別紙演習資料参照 ユニホーム着用
15 回目					
16 回目	試験				
評価方法					
筆記試験 課題レポート（大高 40%、薄田 60%）					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院					
系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 医学書院					
写真でわかる 小児看護技術アドバンス 山元恵子・佐々木祥子 インターメディカ					
参考文献					
講義に関係のあるものを随時紹介する					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名		講義担当		所属	
母性看護学概論		佐々木 寿美礼		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2 年前期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標					
女性を取り巻く環境と、女性の生涯の健康、ライフサイクル各期の看護および次世代育成のための支援について理解する。母性看護の基盤となる概念について学ぶ。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	母性とは① 母性の定義と親になることの意味			講義	教科書・資料
2 回目	母性とは② 母子相互作用と母親役割獲得過程、家族の発達段階			講義	教科書・資料
3 回目	リプロダクティブヘルス/ライツ セクシュアリティ			講義	教科書・資料
4 回目	母性看護の課題と倫理 母性看護の課題と倫理的問題			講義	教科書・資料
5 回目	母子保健① 母子保健に関する施策、母子保健統計の動向			講義	教科書・資料
6 回目	母子保健② 母性看護に関わる法律と施策			講義	教科書・資料
7 回目	親になるということと母性の発達、生命倫理と看護職の役割			講義・DVD 鑑賞	レポート
8 回目	生殖器の形態と機能① 生殖器の形態と機能、月経周期、妊娠の成立			講義	教科書・資料
9 回目	生殖器の形態と機能② 性分化のメカニズムと生殖器の発達、性分化疾患			講義	教科書・資料
10 回目	女性のライフサイクル各期における看護① 思春期女性の特徴、思春期の健康問題と健康教育			講義	教科書・資料
11 回目	女性のライフサイクル各期における看護② 性成熟期女性の特徴、性成熟期の健康問題と看護、女性特有のがん			講義	教科書・資料
12 回目	女性のライフサイクル各期における看護③ 更年期・老年期女性の特徴、更年期・老年期女性の健康問題と看護			講義	教科書・資料
13 回目	リプロダクティブヘルスケア① 家族計画、主な性感染症と予防			講義	教科書・資料
14 回目	リプロダクティブヘルスケア② ライフサイクルに適した健康教育の実践			グループワーク	教科書・資料
15 回目	リプロダクティブヘルスケア③ グループワーク発表			発表	
16 回目	試 験				
評価方法					
試験(80 点)+レポート、グループワーク(20 点)					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 母性看護学[1] 母性看護学概論、医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当 中村 幸恵 古田 由美子		所属 並木クリニック ゆみっこ助産院	
周産期ケア論					
履修時期	2 年前・後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標					
正常な妊娠・分娩・産褥期の身体的・心理的变化の特徴と看護を学ぶ。新生児の正常な経過と特徴を理解し、健康状態の観察点と看護について理解する					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	妊娠期の看護① 妊娠期の身体的・心理的・社会的特性			講義	教科書・資料
2 回目	妊娠期の看護② 妊娠とその診断、胎児の発育と健康状態の診断と看護			講義	教科書・資料
3 回目	妊娠期の看護③ 妊婦と胎児の経過の診断とアセスメント			講義	教科書・資料
4 回目	妊娠期の看護④ 妊婦が受ける母子保健サービスと健康教育			講義	教科書・資料
5 回目	分娩期の看護① 分娩の 3 要素および分娩の経過			講義	教科書・資料
6 回目	分娩期の看護② 産婦と胎児、家族のアセスメント			講義	教科書・資料
7 回目	分娩期の看護③ 安全分娩への看護			講義	教科書・資料
8 回目	分娩期の看護④ 分娩期の看護の実際			講義	教科書・資料
9 回目	新生児期の看護① 新生児の生理と機能			講義	教科書・資料
10 回目	新生児期の看護② 新生児のアセスメント			講義	教科書・資料
11 回目	新生児の看護③ 出生直後から生後 1 か月健診までの看護			講義	教科書・資料
12 回目	産褥期の看護① 産褥期の身体的・心理的・社会的変化			講義	教科書・資料
13 回目	産褥期の看護② 退行性変化、進行性変化への看護			講義	教科書・資料
14 回目	産褥期の看護③ 母乳育児支援			講義	教科書・資料
15 回目	産褥期の看護④ 育児にかかわる看護、家族への看護			講義	教科書・資料
16 回目	試 験				
評価方法					
試験(中村 50 点＋古田 50 点:合計 100 点)					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論、医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
母性看護技術		佐々木 寿美礼		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2 年後期	単位数	1 単位	時間数	15 時間
受講上の留意点					
実習室における演習の際は身だしなみを整えること。					
科目のねらい・授業目標					
妊産褥婦の観察技術、新生児の観察技術および清潔技術援助について学び、実践できる。母子を1つの単位としてとらえ、看護過程の展開ができる。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	母性看護技術とは 妊婦、褥婦、新生児の観察技術および新生児の清潔援助			講義	教科書・資料
2 回目	妊婦、褥婦、新生児の観察技術 レオポルド触診法と産褥期の観察、新生児のバイタルサイン測定			演習	教科書・資料
3 回目	看護過程の展開① 母性看護における看護過程の考え方			講義・グループワーク	教科書・資料
4 回目	看護過程の展開② 母性看護過程の展開			グループワーク	教科書・資料
5 回目	看護過程の展開③ 母性看護過程の展開			グループワーク	教科書・資料
6 回目	新生児の清潔援助① 新生児の沐浴			演習	教科書・資料
7 回目	新生児の清潔援助② 新生児の沐浴			演習	教科書・資料
8 回目	試験・まとめ				
評価方法					
筆記試験 50 点、看護過程 50 点(合計 100 点)					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論、医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
周産期の健康逸脱と看護		佐々木 寿美礼		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2 年後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標					
妊娠・分娩・産褥期および新生児の健康逸脱と看護について学ぶ。母子の正常な経過と起こりうるリスクをふまえた看護について理解できる。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	ハイリスク妊婦の看護① 妊娠期の感染症とその看護			講義	教科書・資料
2 回目	ハイリスク妊婦の看護② 妊娠期の合併症とその看護			講義	教科書・資料
3 回目	ハイリスク妊婦の看護③ 妊娠持続期間の異常とその看護			講義	教科書・資料
4 回目	ハイリスク妊婦の看護④ 胎児付属物の異常とその看護			講義	教科書・資料
5 回目	ハイリスク妊婦の看護⑤ 不妊治療とその看護			講義	教科書・資料
6 回目	分娩期の異常と看護① 産道、胎児、胎児付属物の異常とその看護			講義	教科書・資料
7 回目	分娩期の異常と看護② 異常分娩とその看護			講義	教科書・資料
8 回目	分娩期の異常と看護③ 帝王切開分娩とその看護			講義	教科書・資料
9 回目	分娩期の異常と看護④ 分娩時異常出血とその看護			講義	教科書・資料
10 回目	産褥期の異常と看護① 退行性変化の異常とその看護			講義	教科書・資料
11 回目	産褥期の異常と看護② 進行性変化の異常とその看護			講義	教科書・資料
12 回目	産褥期の異常と看護③ 産褥期の精神障害とその看護			講義	教科書・資料
13 回目	新生児の異常と看護① 新生児仮死とハイリスク新生児の看護			講義	教科書・資料
14 回目	新生児の異常と看護② 低出生体重児と高ビリルビン血症およびその看護			講義	教科書・資料
15 回目	新生児の異常と看護③ 早産児とその看護			講義	教科書・資料
16 回目	試 験				
評価方法 試験(100 点)					
使用するテキスト					
系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論、医学書院					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
精神看護学概論		小林 正嘉		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2年前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
1. 「こころとは何か」「こころの健康とは何か」という問いを念頭に置き授業に臨みましょう。					
2. ノートを1冊用意し、受講した日のうちに復習(ノート作り)する習慣をつけましょう。					
科目のねらい・授業目標					
履修の目的：健康なこころの発達と機能を理解し、こころの健康を維持・増進するための保健活動について学ぶ					
1. 精神看護(学)の概念を理解し、精神看護(学)の目的・機能・役割を理解する。					
2. 「こころとは」「こころの健康とは」について考え、精神看護師の役割を理解する。					
3. こころの健康問題に対する考え方の変遷や法制度を通し、精神看護の対象を理解する。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	ガイダンス 精神看護学で学ぶこと 看護学における精神看護学の位置付け			講義	
2回目	精神看護学の範囲・対象・目的、構造・プロセス			講義	
3回目	「精神とは・こころとは」「こころの健康とは」			講義	
4回目	不安と「防衛機制」 「ストレスとは」「精神危機とは」 危機のプロセスと看護介入、ストレスマネジメント			講義	
5回目	精神看護の実践 「技術とは」「看護技術とは」「精神看護技術とは」			講義	
6回目	精神看護と看護の哲学 精神看護師の役割			講義	
7回目	実践における働き掛けの技法			講義	
8回目	中間試験				
9回目 10回目	精神医療と看護の歴史的変遷①②			講義	
11回目	予防精神医学と精神保健活動① 第1次予防 精神保健福祉に関する啓蒙・教育活動			講義	
12回目	予防精神医学と精神保健活動② 第2次予防 地域精神保健の動向 第3次予防 自殺と自殺予防			講義	
13回目	精神保健医療をめぐる法律 精神保健医療に関する法制度の変遷 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律			講義	
14回目	臨床の場におけるこころの健康 精神的アプローチの実践 リエゾン精神看護 看護者のメンタルヘルスとその対応			講義	
15回目	精神看護を支える理論・概念			講義	
16回目	終了試験				
評価方法					
講義への参加状況・聴講姿勢、課題への取り組み、筆記試験を総合的に評価します。					
使用するテキスト					
講義に際し資料を配布します。					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
精神看護技術		中川 まゆ子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2 年次前期	単位数	1 単位	時間数	15 時間
受講上の留意点 ペプロウの人間関係論及びセルフケア理論については、事前に参考資料を読み授業に参加しましょう。 臨地実習で実践する内容も含まれているため、活用できるようなノートの作成を心がけましょう。					
科目のねらい・授業目標 精神看護における基本技術と精神看護の展開方法を理解する。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	患者—看護師関係成立発展 1)ペプロウの人間関係論			講義	
2 回目 3 回目	治療的コミュニケーション技術 1)治療的コミュニケーションの定義 2)介入が必要な状況や現象 3)介入方法 4)介入の留意点 5)患者—看護師のコミュニケーションの実際			講義 演習	
4 回目 5 回目	自己洞察の意義と再構成 1)プロセスレコードとは 2)プロセスレコードの活用目的 3)プロセスレコードの記述方法 4)事例を通して(ペプロウの看護理論を用いて)			講義 グループワーク	
6 回目 7 回目	セルフケア理論の理解 1)オレムによるセルフケアの定義 2)アンダーウッドによるオレム看護論の修正・操作化 3)ケアレベルとセルフケア評価 セルフケア行動の観察のポイントと具体的援助方法			講義 グループワーク	
8 回目	試験・まとめ				
評価方法 筆記試験:80 点 課題ノート:20 点					
使用するテキスト 看護実践のための根拠が分かる精神看護技術 メヂカルフレンド社					
参考文献 講義に関係のあるものを随時紹介する					

科目名		講義担当		所属	
精神の健康障害と看護		齋藤 武彦 中川 まゆ子		市立秋田総合病院 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	2年前期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
講義前には、既習した精神疾患など必要な内容を確認して臨みましょう。 臨地実習で実践する内容も含まれているため、活用できるようなノートの作成を心掛けましょう。					
科目のねらい・授業目標					
精神に障害のある対象の症状や問題の特徴、疾患に応じた看護のあり方を理解する。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目 2回目	統合失調症（急性期）患者の看護①②			講義 演習	
3回目 4回目	統合失調症（慢性期）患者の看護①②			講義	
5回目	気分障害患者の看護			講義	
6回目 7回目	認知症患者の看護①②			講義 グループワーク	
8回目	中間試験				
9回目	心身症患者の看護			講義	
10回目 11回目	パーソナリティ障害患者の看護①②			講義	
12回目	アルコール関連障害患者の看護			講義	
13回目	強迫性障害患者の看護			講義	
14回目	不安症性障害患者の看護			講義	
15回目	摂食障害患者の看護				
16回目	終了試験				
評価方法					
筆記試験、講義への参加状況・聴講姿勢、課題への取り組みを総合的に評価します。					
使用するテキスト ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版 看護実践のための根拠が分かる精神看護技術 メヂカルフレンド社					
参考文献 講義に関係のあるものを随時紹介する					

科目名		講義担当		所属	
精神障害者の 日常生活援助		中川 まゆ子 高橋 将太		秋田市医師会立秋田看護学校 市立秋田総合病院	
履修時期	2年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点 授業内容について教科書を熟読しわからないところを明確にして臨みましょう。 精神に障害のある対象の生活の場を学び、グループワークでは各自の意見を尊重し活発に話し合い、自立を支えるための看護について考えていきましょう。					
科目のねらい・授業目標 1. 精神科における治療と看護の役割・身体ケアを理解できる。 2. 精神科医療におけるリハビリテーションの意味や社会資源について理解できる。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	序章			講義	
2回目	精神科看護におけるケアの方法				
3回目	1)「治療的関わり」の考え方 2)日常生活行動の援助 3)服薬治療に関わる援助				
4回目	ストレスマネジメントと精神科における看護師の役割 1)ストレスマネジメント 2)精神看護にかかわる資格認定			講義	
5回目	入院環境と治療的アプローチ 1)治療の場としての精神科病棟 2)治療的環境を整える 3)精神科病棟でのミーティング―事例から考える― 4)災害時の支援			講義	
6回目	看護の倫理と人権擁護			講義	
7回目					
8回目	救急医療現場における患者支援と精神的関わり 1)自殺企図により救急搬送される患者 2)急性薬物中毒で救急搬送される患者			講義	
9回目	臨地実習から学ぶ			講義 グループワーク	
10回目	1)精神科の看護実習とは				
11回目	2)患者からのさまざまな感情表出				
12回目	3)カンファレンスの意義 4)実習記録				
13回目	「地域で暮らす」を支える 1)日本における精神障害者と精神病床の現状 2)「入院医療」から「地域社会」での生活へ			講義	
14回目	「地域で暮らす」を支える			講義	
15回目	精神保健福祉士の役割 3)地域生活を支える社会資源の活用 4)地域生活(移行)支援の実際 5)事例で学ぶ長期入院患者の退院支援から地域生活支援				
16回目	試験				
評価方法 筆記試験:90点 課題レポート:10点					
使用するテキスト ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と看護の基本 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版					
参考文献 講義に関係のあるものを随時紹介する					

科目名		講義担当		所属	
国際看護		新沼 剛		日本赤十字東北看護大学	
履修時期	3 年前期	単位数	1 単位	時間数	15 時間
受講上の留意点 普段から新聞、雑誌、テレビ、インターネット等で人間の健康や環境に影響を与える出来事に関心を持ち、情報を収集しておくこと。					
科目のねらい・授業目標 広い視野に立った保健・医療・福祉を考える人材を育成する。 1.国際社会の現状と国際看護について理解できる。 2.世界の人々の健康問題について学び、異文化の価値観を尊重した看護について考えることができる。 3.国際看護活動の課題について考えることができる。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1 回目	ガイダンス ・国際看護の定義・目的・対象 ・世界の人々はどのような環境のもとどのような生活をしているのか			講義	資料
2 回目	持続可能な開発目標（SDGs）を理解できる ・SDGsの定義 ・SDGsの保健分野の目標（妊産婦の健康、こどもの健康）			講義	資料
3 回目	・SDGsの保健分野の目標（感染症疾患、非感染症疾患）			講義	資料
4 回目	国際協力における保健医療専門機関の役割・活動の実際について理解できる ・国際機関の役割と活動			講義	資料
5 回目	・政府系援助機関の役割と活動 ・赤十字、非政府組織（NGOs）の役割と活動			講義	資料
6 回目	プライマリーヘルスケア（PHC）を理解できる ・PHC の概念 ・ラクの物語の考察			講義	資料
7 回目	社会的マイノリティを理解できる ・在留外国人の健康問題と看護 ・性的マイノリティの方々の健康問題と看護			講義	資料
8 回目	試験・まとめ			筆記試験	
評価方法 筆記試験					
使用するテキスト テキストは特に定めず、プリントを配布する。					
参考文献					

科目名		講義担当		所属	
災害看護		熊谷 洋子		秋田厚生医療センター	
履修時期	3年次	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標					
1. 災害が及ぼす影響に対する社会の対応がわかり、社会情勢やニーズについて考えることができる。					
2. 災害時に必要な技術を学び、科学的根拠に基づいた安全な技術を探求する。					
3. 災害時における看護活動について学び、災害を想定した看護を考えることができる。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	災害医療の基礎 -災害の理解・法制度・医療体制-				
2回目	危機管理 -防災・BCP・感染対策など-				
3回目	災害看護 災害時に必要な医療・看護技術			一次トリアージ の実際	
4回目	災害サイクル:超急性期～急性期の看護 -必要な医療・看護技術-				
5回目	災害サイクル:亜急性期の看護 -必要な医療・看護技術- 机上シミュレーションの準備			グループワーク	
6回目	被災地病院での患者受け入れ机上シミュレーション			グループワーク 発表	
7回目	災害サイクル:復旧・復興期～静穏期・準備期 こころのケア				
8回目	試験				
検討準備中(現在未定です)					
・授業時間内で、動画を視聴いただくことがあります。					
・5・6回目のシミュレーション以外でもグループワーク、発表をしていただくことがあります。					
・5・6回目のグループワークの内容、形式を変更することがあります。					
評価方法					
試験					
グループワークの参加状況					
使用するテキスト					
なし					
参考文献					
看護の統合と実践③災害看護 第4版 編者:酒井明子、長田恵子、三澤寿美					
看護の統合と実践②災害看護学 第3版 編集:小井土雄一、石井恵美子					
看護の統合と実践3 災害看護・国際看護 第4版 編集:竹下喜久子					
災害現場でのトリアージと応急処置 第1版 著者:山崎達枝					
災害支援ナース養成研修テキスト2024年 公益社団法人日本看護協会					
秋田県 DMAT 養成研修資料 2023年					

科目名 看護マネジメントと 医療安全		講義担当 吹谷 由美子 成田 雪美		所属 秋田県看護協会 医療法人運忠会 土崎病院	
履修時期	2年後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点 授業内容について教科書を読み授業に参加すること。					
科目のねらい・授業目標 1.より良い看護サービスを提供するために、看護組織の一員として、医療チームの一員としての看護の役割を学ぶ。 2.広がる看護の活動領域について理解し、看護の質向上が図られていることを学ぶ。 3.看護倫理の基本原則と自己の看護実践を振り返る基盤となる倫理的行動を探求できる。 4.医療安全の考え方を学ぶ。 5.医療事故を予防するための安全システムを学ぶ。 6.事故事例をもとに、講義や既習の知識を活用し安全対策を考えることができる					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	1.看護とマネジメント ・看護管理の概略が分かる ・マネジメントプロセスとマネジメントサイクルが分かる ・看護のマネジメントが必要とされている場が分かる			講義	教科書1
2回目 3回目	2.ケアのマネジメント ・患者の権利を守るための概念について理解できる ・看護ケアシステムの種類と特徴について理解し、また他職種との連携・職務を理解することができる			講義	教科書1
4回目 5回目	3.看護サービスのマネジメント ・医療サービスの概念が分かり、評価の必要性を理解できる ・組織をマネジメントするにあたり、理念と現状分析の必要性を理解し、看護の組織化との関わりを理解することができる ・人的資源のマネジメントについて、看護システムの種類・看護単位・労働管理について理解することができる。 ・情報・物品のマネジメントを理解することができる			講義	教科書1
6回目	4.看護をとりまく諸制度 ・看護の定義や看護を取り巻く環境要因としての諸制度を理解できる ・看護教育について理解することができる			講義	教科書1
7回目	5.マネジメントに必要な知識と技術 ・組織の構造とその原理について理解し、マネジメントの関連について理解できる ・組織における人間関係についての諸理論について理解できる ・組織の中での意思決定等個人の能力を広げるための要素について理解できる			講義	教科書1
8回目	試験			筆記試験	
9回目	1.看護のための安全管理(総論) 1)医療安全を学ぶことの重要性 2)医療安全の考え方の変化 3)医療安全に関する基本的用語 4)看護師の法的規定 5)医療安全対策への取り組み			講義	教科書2

授業回数	学習内容	方法	備考
10 回目	2.ヒューマンエラーの見方・考え方 1)安全とは 2)ヒューマンエラー発生メカニズム 3)エラーに関係のある人間の特性 4)エラーを起こしやすい環境要因	講義	教科書 2
11 回目	3.事故分析・事故対策 1)事故の構造 2)事故分析の考え方と具体的方法 3)エラーが起こりにくいしくみ作り 4)体系づけられたエラー対策の考え方	講義	教科書 2
12 回目	4.医療事故後の対応 5.リスクマネジメント:チームで取り組む安全文化の醸成 1)リスクマネジメント 2)チームで取り組む安全文化	講義	教科書 2
13 回目	6.看護業務に関連する事故と安全対策Ⅰ 1)看護業務を行う際の環境の特徴とリスク 2)プロセス型の事故と非プロセス型の事故 3)起こしてはいけない事故(間違い)	講義	教科書 2
14 回目	7.看護業務に関連する事故と安全対策Ⅱ 1)看護業務に関連する医療事故の種類 2)看護業務に関連する医療事故の対策	講義	教科書 2
15 回目	8.看護業務上の危険と防止策 9.看護学生の実習と安全	講義	教科書 2
16 回目	試験	筆記試験	
評価方法 筆記試験:吹谷 5 割 成田 5 割			
使用するテキスト 1.系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践〔1〕看護管理.医学書院 2.ナースング・グラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全 . MC メディカ出版			
参考文献 ・河野龍太郎 「医療におけるヒューマンエラー なぜ間違える どう防ぐ」 医学書院 ・東京慈恵会医科大学付属病院 看護部・医療安全管理部編著 TeamSTEPPS を活用したヒューマンエラー防止策			

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名		講義担当		所属	
臨床看護の実践		薄田 悦子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	3年前期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点 これまでの講義や実習、学習で培った力に合わせてチームで協働して働くとはどういうことかを考え、対象の安全と安楽、自立を基盤に、大切にしたい看護を行動に示すことが必要です。既習科目のすべてを復習して臨んでください。 学習効果を高めるため演習を実施します。 臨地実習において活用していきますので積極的に参加しましょう。					
科目のねらい・授業目標 1.看護師としての自己を振り返り、看護観を深める。 2.看護場面で「起こりやすい現象を予測し、倫理的配慮を行いつつ安全な看護を提供できる。					
授業回数	学習内容			方法	備考
1回目	複数の事例を理解し、優先順位を考えた看護計画立案 1.授業計画ガイダンス 2.事例提示 3.複数事例のアセスメント、看護計画立案			講義 個人ワーク	教科書 1・2
2回目					教科書 1・2
3回目	時間管理、看護チームにおける連絡、報告、相談の重要性 1.多重課題への対処 2.優先度に合わせて援助計画 3.優先度に合わせて援助内容の修正			講義・演習 グループワーク	教科書 1・2 実習室にて演習
4回目					
5回目	状況判断が必要とされる場面における自己の課題 1.自己の課題を見出す			講義 個人ワーク	教科書 1・2
6回目	チームメンバーと連携しながら、看護実践中に起こった突発事象に対して根拠に基づいた判断、実施、評価を実践する。 1.複数の受け持ち患者の対する看護実践 2.突発的な事象への対処 3.グループ討議を通して看護の優先度について振り返る			講義・演習 グループワーク	教科書 1・2 実習室にて演習
7回目					
8回目					
評価方法 ワーク取り組み状況、演習状況、レポート					
使用するテキスト 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[1]看護管理.医学書院 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[2]医療安全.医学書院					
参考文献					

秋田市医師会立秋田看護学校

臨地実習

基礎看護学実習

I.実習の目的・目標

1. 基礎看護学実習Ⅰ

実習目的	看護が提供されている場と看護の対象を理解する
実習目標	1. 看護が提供されている場としての病院を理解する 2. 実際の看護活動の見学を通して、看護師の役割を考える 3. 看護学生としての自覚を持ち、社会性を身につける

2. 基礎看護学実習Ⅱ

実習目的	看護が提供されている場と看護の対象を理解し、対象が目指す健康を考え、日常生活援助を実践することができる
実習目標	1. 看護が提供されている場を理解する 2. 看護の対象を身体的・心理的・社会的側面から理解する 3. 看護の対象を生活者として捉え、対象が目指す健康を考える 4. 根拠と留意点を考慮した日常生活援助の計画および実践ができる 5. 看護の対象者の反応を観察・記録・報告し、実践した援助行為について振り返ることができる 6. 看護学生としての自覚をもち、社会性を身につける

3. 基礎看護学実習Ⅲ

実習目的	健康障害にある人を総合的に理解し、その人に必要な個別的・計画的な看護を行うことで、基礎的援助の実践能力を養う
実習目標	1. 健康障害にある人の看護に必要な情報を身体的・精神的・心理社会的側面から総合的にとらえることができる 2. 健康障害にある人の情報を査定し、看護問題を抽出できる 3. 健康障害にある人の看護問題を優先順位にしたがい、問題解決のための計画（具体策）の立案ができる 4. 健康障害にある人の計画（具体策）を実践し、その成果を評価・修正することができる 5. 責任と協調性を重んじる行動がとれる

II.実習方法

1.実習単位・実習時期・実習期間

	実習単位	実習時期	実習期間
基礎看護学実習Ⅰ(病院を知る実習)	1単位	1年前期	5日間
基礎看護学実習Ⅱ(日常生活を知る実習)	1単位	1年後期	5日間
基礎看護学実習Ⅲ(看護過程)	1単位	2年後期	10日間

2.主たる実習病棟：市立秋田総合病院・秋田厚生医療センター

3.実習方法：実習要項参照

4.実習配置：配置表を参照

5.実習記録：既定の実習記録用紙を使用

6.学内演習：実習要項参照

III.実習の評価

1.評価対象：実習記録、実習態度、自己学習、出席状況

2.評価者：実習指導者と教員の両方で行うが、最終評価は教員が行う

3.評価基準：実習評価表に基づいて評価する

4.単位認定：単位認定は学則に基づく

地域・在宅看護論実習

I.実習の目的・目標

1.地域・在宅看護論実習 I

実習目的	地域で暮らす全ての生活者の特徴がわかり、生活者を支援する社会資源や多職種連携を理解できる。
実習目標	(保健所) 1.暮らす人々の健康を支える保健所の活動内容が理解できる。 (地域包括支援センター) 1.地域包括支援センターを利用する対象の目的と、援助の必要性が理解できる。 (各施設) 1.地域で生活している生活者を理解できる。 2.住み慣れた場所で安心して生活できるような援助が行われているのか理解できる。 3.社会資源の活用と多職種連携を理解できる。 4.地域で生活している生活者を理解するために、主体的に学習できる。

2.地域・在宅看護論実習 II

実習目的	在宅療養者と家族の特徴を理解し、住み慣れた場所で生活がおくれるよう支援するための基礎的能力を養うことができる。また、在宅療養を支える社会資源や多職種連携を理解できる。
実習目標	1.在宅療養者とその家族の特徴が理解できる。 2.事例を通して、訪問看護における看護過程と援助方法が理解できる。 3.訪問看護師の役割と社会資源の活用、多職種連携が理解できる。 4.在宅における看護について主体的に学習できる。

II.実習方法

1.実習単位:4 単位 180 時間

地域・在宅看護論実習 I 90 時間

地域・在宅看護論実習 II 90 時間

2.実習時期:地域・在宅看護論実習 I 1 年前期

地域・在宅看護論実習 II 3 年前・後期

3.実習施設

地域・在宅看護論実習 I	秋田市保健所・地域包括支援センター 特別養護老人ホーム・短期入所生活介護事業所(ショートステイ) 通所施設(デイサービス)・障がい者施設
地域・在宅看護論実習 II	居宅介護支援事業所 訪問看護ステーション

4.実習方法

1)地域・在宅看護論実習 I :10 日間を 1 クールとし実施

(1)各施設へ訪問し、見学実習

(2)実習配置:配置表を参照

(3)実習記録:既定の実習記録用紙を使用

2)地域・在宅看護論実習 II :10 日間を1クールとし実施

(1)居宅介護支援事業所は見学実習

問看護ステーション実習は、1 事例を受け持ち看護展開を実施

受け持ち以外の訪問看護実習は、見学とする

(2)実習配置:配置表を参照

(3)実習記録:既定の実習記録用紙を使用

(4)カンファレンス

5.その他

事前学習準備として、実習要項の事前学習内容を学習し実習に臨むこと

III.実習評価

1.評価対象:学習内容・学習行動・看護過程・実習記録・出席状況

2.評価者:実習指導者と教員の両者で実施するが、最終評価は教員が行う

3.評価基準:評価表に基づき評価する

4.単位認定:各実習終了後に評価し、単位認定とする

5.単位認定の条件:単位認定は学則に基づく

成人・老年看護学実習

I. 実習の目的・目標

1. 成人・老年期の健康管理実習

実習目的	地域に暮らす成人期・老年期にある人の健康保持・増進・疾病予防活動における看護の実際と役割について学ぶ。
実習目標	1. 地域における健康増進活動の実際を理解する。 2. 地域における健康増進活動の内容と看護の役割について理解する。 3. 保健所や市町村保健センター・保健センター・産業保健室等の機能と役割を理解する。

2. 成人・老年期の周手術期実習

実習目的	周手術期における対象の病態、治療およびそれに伴う対象とその家族の心理・社会的側面を理解し、状況の変化に応じて、回復および適応への援助ができる能力を習得する。また、クリティカルケアの場における生命維持のための看護と、対象の人権擁護家族に対する支援を考慮した看護のあり方を学ぶ。
実習目標	1. 対象とその家族を包括的に理解し、援助の必要性を判断する。 2. 対象とその看護に対して、状況に応じた看護を展開できる。 3. 対象とその家族とのかかわりを通して、倫理的な判断や行動ができるための能力を習得する。 4. 周手術期看護における看護チームの機能および他職種との連携・協働の必要性和そのあり方を学ぶ。 5. クリティカルケアの場を見学することで特殊な環境における看護のあり方を考える。

II. 実習方法

1. 実習単位：3単位 135時間

成人・老年期の健康管理実習 45時間

成人・老年期の周手術期実習 90時間

2. 実習時期

成人・老年期の健康管理実習 2年次 後期

成人・老年期の周手術期実習 3年次 前・後期

3. 実習施設：市立秋田総合病院、秋田厚生医療センター、他実習要項参照

4. 実習方法

成人・老年期の健康管理実習は5日間を1クールとし実施

成人期の慢性期・終末期実習は10日間を1クールとし実施する。

1) 受け持ちは実習指導者・教員で選定し、学生が決定する。

2) 実習配置：配置表を参照

3) 実習記録：既定の実習記録用紙を使用

4) カンファレンス

5. 見学実習

見学実習においては、対象の健康レベルの特徴をとらえて看護の方法を理解する

6. その他

実習事前準備として、成人期におけるあらゆる発達段階と健康問題、生活と健康問題、各健康レベルの特性と健康レベルに応じた看護、各機能障害の特性(メカニズムと役割、アセスメント、生命・生活への影響、主な症状・検査・治療、一般的な疾患)と看護を学習して実習に臨むこと

III. 実習の評価

1. 評価対象：学習内容・学習行動・看護過程、実習記録、出席状況

2. 評価者：実習指導者と教員の両者で行うが、最終評価は教員が行う

3. 評価基準：評価表に基づき評価する

4. 単位認定：実習終了後に評価し、単位認定とする

5. 単位認定の条件：単位認定は学則に基づく

成人期の慢性期・終末期実習

I.実習の目的・目標

実習目的	生涯にわたりセルフコントロールが必要な人の特徴を理解し持てる力を活かし対象とその家族へ個別性のある看護を実践する能力を養う。
実習目標	1.生活する対象とその家族を包括的に理解し、持てる力を活かした援助の必要性を判断できる。 2.障害をもちながらも、障害セルフコントロールにより、生活の質を高められるようなセルフケア教育・健康教育ができる。 3.対象とその家族を支える他職種連携と、チームにおける看護師の役割を理解できる。 4.終末期にある対象が意義深く生きられるように、また尊厳を維持した援助を理解できる。

II.実習方法

- 1.実習単位：2単位 90時間
- 2.実習時期：3年次前・後期
- 3.実習施設：市立秋田総合病院、秋田厚生医療センター、外旭川病院
- 4.実習方法：10日間を1クールとしとし実施
 - 1)受け持ちは、実習指導者・教員で選定し、学生が決定する。
 - 2)実習配置：配置表を参照
 - 3)実習記録：既定の実習記録用紙を使用
 - 4)カンファレンス
- 5.見学実習
見学実習においては、対象の健康レベルの特徴をとらえて看護の方法を理解する
- 6.その他
実習事前準備として、成人期におけるあらゆる発達段階と健康問題、生活と健康問題、各健康レベルの特性と健康レベルに応じた看護、各機能障害の特性(メカニズムと役割、アセスメント、生命・生活への影響、主な症状・検査・治療、一般的な疾患)と看護を学習して実習に臨むこと

III.実習の評価

- 1.評価対象：学習内容・学習行動・看護過程、実習記録、出席状況
- 2.評価者：実習指導者と教員の両者で行うが、最終評価は教員が行う
- 3.評価基準：評価表に基づき評価する
- 4.単位認定：各実習終了後に評価し、単位認定とする
- 5.単位認定の条件：単位認定は学則に基づく

老年看護学実習

I. 実習の目的・目標

実習目的	加齢と健康障害にある高齢者の特徴を理解し、対象に必要な看護を実践する能力を養う。
実習目標	1. 老年期の特徴と健康障害の関連が理解できる。 2. 高齢者の個別性を尊重した看護展開ができる。 3. 高齢者の社会資源の活用方法が理解できる。 4. 高齢者と高齢者を支援する人々の関わりを通して、自己の老年観を深めることができる。

II. 実習方法

1. 実習方法：2 単位 90 時間
2. 実習時期：3 年次前・後期
3. 実習施設：市立秋田総合病院・秋田厚生医療センター
4. 実習方法：10 日間を 1 クールとし実施
 - 1) 受け持ちは、実習指導員・教員で選定し、学生が決定する
 - 2) 実習配置：配置表を参照
 - 3) 実習記録：既定の実習記録用紙を使用
 - 4) カンファレンス
5. その他
事前学習として老年期における発達段階と健康問題、加齢と老化、一般的な疾患を学習し実習に臨むこと

III. 実習の評価

1. 評価対象：学習内容・学習行動・看護過程、実習記録、出席状況
2. 評価者：実習指導者と教員の両方で行うが、最終評価は教員が行う
3. 評価基準：評価表に基づき評価する
4. 単位認定：老年看護学実習終了後に評価し、単位認定とする
5. 単位認定：単位認定は学則に基づく

小児看護学実習

I.実習の目的・目標

1.小児看護学実習

実習目的	小児、家族および取り巻く人々を総合的にとらえ、これまで学んだ知識・技術・態度を統合し看護を必要としている人々に看護実践できる能力を養う
実習目標	1.小児各期の特徴と正常な成長・発達を理解することができる 2.小児各期の成長・発達段階に応じた接し方ができる 3.健康の保持増進・疾病予防のための援助ができる 4.患児の成長・発達段階、健康レベルにあわせた看護計画を立案することができる 5.健康障害が小児と家族および取り巻く人々に及ぼす影響を理解することができる 6.医療チームの一員としての役割が理解できる

II.実習方法

- 1.実習単位：2単位 90時間
- 2.実習時期：3年前・後期
- 3.実習施設：市立秋田総合病院、秋田厚生医療センター、市内の保育所
- 4.実習方法：10日間を1クールとし実施
 - 1)病棟実習では、小児1名を受け持ち、看護計画を立案、実施、評価する
 - 2)外来実習では、一般外来や乳児健診、予防接種を見学し、必要な看護技術を実践する
- 3)実習配置：配置表を参照
- 4)実習記録：既定の実習記録用紙を使用
- 5.学内演習：乳児健診時の身体計測と予防接種に必要な看護技術を実践する
- 6.その他：事前学習として以下の項目を学習して臨むこと
 - 1)各期の子どもの特徴・成長・発達と日常生活援助
 - 2)病期における子どもと家族のアセスメントの特徴
 - 3)健康障害をもつ子どもと家族への看護
 - 4)子どものフィジカルアセスメント(バイタルサイン測定、身体計測、診察時の介助)
 - 5)小児の疾患と看護
 - 6)検査と看護
 - 7)治療と看護：吸入療法、酸素療法、食事療法、輸液療法

III.実習の評価

- 1.評価対象：学習内容・学習行動、実習記録、出席状況
- 2.評価者：病棟実習指導者と実習指導担当教員の両者で行うが、最終評価は教員が行う
- 3.評価基準：評価表に基づき評価する
- 4.単位認定：実習終了後に評価し、単位認定とする
- 5.単位認定の条件：単位認定は学則に基づく

母性看護学実習

I. 実習の目的・目標

1. 母性看護学実習

実習目的	妊娠、分娩、産褥における母性の特徴を理解し、妊産褥婦及び新生児に必要な看護と、保健指導が行える基礎能力を養う。
実習目標	1.産褥期の身体的・精神的・社会的変化と健康状態および新生児の正常な経過について説明できる。 2.健康な対象であることをふまえ、褥婦および新生児の経過に応じ、個別に合わせた看護援助を計画、実践できる。 3.母子保健と多職種連携、社会資源および継続看護の必要性について考察できる。 4.生命誕生への関わりと看護実践を通して自己の母性観、父性観を明らかにできる。 5.看護学生として主体的に取り組み、対象を尊重する姿勢をもち、看護師としての基本的態度を養う。

II. 実習方法

- 1.実習単位：2単位90時間
- 2 実習時期：3年前・後期
- 3.実習施設：秋田厚生医療センター、市立秋田総合病院、産前産後ケアハウス助産院ばーす、並木クリニック
- 4.実習方法：10 日間を1クールとし実施
 - 1)病棟実習では産婦、褥婦、新生児の一組を受け持ち、看護計画を立案、実施、評価する。
 - 2)外来実習（産前産後ケアハウス助産院ばーす、並木クリニック）では妊婦健診、母乳外来や母親学級その他の見学をおこない、地域母子保健について学習する。
 - 3)実習配置：配置表を参照
 - 4)実習記録：既定の実習記録用紙を使用
- 5.学内演習：分娩監視装置の判読の基本、シミュレーターを用いた妊婦の健康診査、産褥期の観察、新生児の計測などを学習する。
- 6.その他：事前学習として以下の項目について学習しておくこと。
 - 1)産褥期および新生児の正常な経過。褥婦は全身状態、退行性変化、進行性変化についてすべて根拠をもって観察できるよう学習する。進行性変化においてはポジショニング・ラッチオンの観察が必須であるため、観察項目を整理しておくこと。
 - 2)産褥期、新生児期に起こりやすい異常およびその予防と看護。
 - 3)妊娠期の生理的変化、マイナートラブルとその看護および保健指導、妊婦健康診査、胎児の成長発達。
 - 4)分娩の経過と産婦への看護
 - 5)母性看護技術（新生児の計測、抱っこ、沐浴、レオポルド触診法）※練習していない場合は実践不可。
 - 6)沐浴指導の原稿を作成し、実習初日に提出すること。

III. 実習の評価

- 1.評価対象：学習内容・学習行動、実習記録、出席状況
- 2.評価者：病棟実習指導者と実習指導担当教員の両者で行うが、最終評価は教員が行う
- 3.評価基準：評価表に基づき評価する
- 4.単位認定：実習終了後に評価し、単位認定とする
- 5.単位認定の条件：単位認定は学則に基づく

精神看護学実習

I.実習の目的・目標

1.精神看護学実習

実習目的	精神に障害をもつ人を総合的に理解し、対象者とのかかわりを通して看護者の役割を学ぶ。
実習目標	1. 精神に障害をもつ人の治療的環境及び生活環境としての病棟の構造と特徴について理解できる。 2. 精神に障害をもつ人の特性を理解できる。 3. 精神に障害をもつ人の生活技能獲得への援助ができる。 4. 精神に障害をもつ人との関係を築き、発展させていくことができる。 5. 対象者とのかかわりを通して、自己の傾向に気づき、自己洞察できる。 6. 薬物療法、その他の療法について理解できる。 7. 精神に障害をもつ人が、地域で生活していくために必要な援助とそれを支える支援システムについて理解できる。

II.実習方法

- 1.実習単位：2単位 90時間
- 2.実習時期：3年前・後期
- 3.実習施設：市立秋田総合病院、秋田緑ヶ丘病院及び関連施設
- 4.実習方法：10日間を1クールとし実施

以下の患者を1例受け持ち看護展開する

- 1)市立秋田総合病院：精神症状が比較的捉えやすく、日常生活に影響している患者とする
- 2)秋田緑ヶ丘病院：レクリエーション・作業療法に参加している慢性期にある患者とする
- 3)実習配置：配置表を参照
- 4)実習記録：既定の実習記録用紙を使用

III.実習の評価

- 1.評価対象：実習要項に沿って評価する
- 2.評価者：実習指導者と教員で行う、最終評価は教員が行う
- 3.評価基準：評価基準に基づき評価する
- 4.単位認定：精神看護学実習終了後に評価し単位認定とする

看護の統合と実践

I. 実習の目的・目標

1. 看護の統合と実践

実習目的	看護チームの一員として看護管理の視点を持ち、複数患者の受け持ち・多重課題を通して、看護の既習知識・技術・態度を統合した専門職として必要な看護実践能力を高める。
実習目標	1. チームメンバーと情報を共有しながら複数の受け持ち患者を理解し、看護計画を立案できる。 2. 複数患者の健康状態に合わせた看護援助を優先順位や時間管理を踏まえ、チームで協力しながら安全に実施できる。 3. 夜間帯の実習を通して、看護の継続性を理解できる。 4. 病院組織における看護管理、医療安全の実際を理解できる。 5. 療養者が安心して地域で生活するための病院の取り組みを理解できる。 6. 医療チームの一員としての役割と連携を理解し自己の課題を明確にできる。

II. 実習方法

1. 実習単位：実習時間：2 単位 90 時間。
2. 実習時期：3 年後期
3. 実習施設：市立秋田総合病院 秋田厚生医療センター。
4. 実習方法：10 日間を 1 クールとし実施
 - 1) 受け持ちケースについて
2 人以上の患者を同時に受け持ち、看護実践をする。
重症患者、医療（人工呼吸器装着など）、看護必要度（全介助）の高い患者は避ける。
援助の実施を中心に考えるのではなく、観察・行動の優先順位について考えられる患者が望ましい。
 - 2) 実習配置：配置表を参照（病棟、夜間、看護管理、地域連携）
 - 3) 実習記録：既定の実習記録用紙を使用
5. 事前学習および準備：以下の項目について事前学習および準備を行う。
 - 1) 看護におけるマネジメント（看護組織、看護提供システム、複数の看護業務が同時に発生した場合の判断や対処方法、看護業務に関する情報の取り扱い、医療安全、看護師の働き方
 - 2) 地域医療連携、継続看護、多職種連携
 - 3) 看護場面における自身の安全確保、発災時の看護
 - 4) 最終実習に向けて自己の実習体験を振り返り、実習目標を明らかにする。
 - 5) 卒業までに到達したい看護技術について、十分経験できるよう実習計画を立てる。
 - 6) 実習病棟の特徴的疾患と看護。

III. 実習の評価

1. 評価対象：学習内容・学習行動・看護過程、実習記録、出席状況。
2. 評価者：実習指導者と教員の両者で行うが、最終評価は教員が行う。
3. 評価基準：評価表に基づき評価する。
4. 単位認定：既習全ての臨地実習終了後に評価し、単位認定とする。
5. 単位認定の条件：単位認定は学則に基づく。

